

# 学校法人 柏 専 学 院

## 平成 27 年 度 事 業 報 告

### 目 次

第 1 部 学校法人柏専学院の概要	.....	P 1
1. 設置する学校、学部、学科等		
2. 学生数の状況		
3. 役員、教職員の概要		
4. 理事会開催状況		
第 2 部 事業の概要	.....	P 3
I 新潟産業大学		
1 大学全般		
1. 1 事業方針		
1. 2 管理・運営		P 3
1. 3 附属図書館		P 4
1. 4 F D (ファカルティ・ディベロップメント) 及び S D (スタッフ・ディベロップメント)		P 5
1. 5 施設開放		P 6
1. 6 連携協定等締結		P 6
2 経済学部		
2. 1 教 育		P 7
2. 2 研 究		P 8
2. 3 学生への支援		P 9
2. 4 留学生支援		P12
2. 5 学生募集及び入学試験		P15
2. 6 地域貢献・生涯学習		P17
2. 7 国際交流		P23
3 大学院経済学研究科		
3. 1 教育及び研究指導の改善		P24
3. 2 学習・研究の支援		
3. 3 教育の成果		
3. 4 国際交流		
II 新潟産業大学附属高等学校		P25
1. 「教育等の事業」の概要		
2. 今年度の実績		
3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ		
4. 生徒募集		
5. 新規取組事項		
第 3 部 財務の概要	.....	P33

# 第 1 部 学校法人柏専学院の概要

## 1. 設置する学校、学部、学科等

(平成 27 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	開設年度	備考
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	昭和 6 3 年度	入学定員 80 人 収容定員 350 人
		文化経済学科	平成 2 1 年度	入学定員 60 人 収容定員 270 人
	大学院 経済学研究科	経済分析・ビジネス専攻	平成 1 6 年度	入学定員 10 人 収容定員 20 人 ※修士課程
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		昭和 3 3 年度	入学定員 160 人 収容定員 480 人

## 2. 学生数の状況

(平成 27 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	学年	学生数	
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	1 年	9 9	
			2 年	5 8	
			3 年	3 7	
			4 年	4 8	
		文化経済学科	1 年	4 5	
			2 年	3 6	
			3 年	3 8	
			4 年	3 3	
	合計( 大学 )			3 9 4	
	大学院	経済学研究科	1 年	6	
2 年			5		
合計(大学院)			1 1		
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		1 年	1 1 8	
			2 年	1 5 6	
			3 年	1 2 4	
	合計( 高校 )			3 9 8	
総 計			8 0 3		

### 3. 役員、教職員の概要

(平成 27 年 5 月 1 日現在)

		現 員					
役員等	理事	監事	役員合計		評議員		
	1 1	2	1 3		2 3		
教員・教諭	大学				高校		
	専任				非常勤	専任	非常勤
	大学院	経済学部	合計				
	8 (併任)	2 7	2 7		2 7	3 0	1 1
職員	大学				高校		
	専任	嘱託	臨時	合計	専任	嘱託	臨時
	2 2	3	5	3 0	4	—	—

### 4. 理事会開催状況

回数	開催日	理事定数 8~11 人 (現員 11 人) 監事定数 2 人 (現員 2 人)		議題、報告事項
		出席理事	出席監事	
第 1 回	H27.5.29	1 1 人	1 人	議題 1.平成 26 年度事業報告 2.平成 26 年度決算 3.平成 27 年度当初予算の一部変更 4.評議員の 選任 5.諸規程の改正 報告 1.資金運用状況
第 2 回	H27.5.29	1 1 人	1 人	議題 1.平成 27 年度当初予算の一部変更
第 3 回	H27.9.28	1 1 人	2 人	議題 1.経常費補助金特別補助「平成 27 年度私立大学等 経営強化集中支援事業」の申請 2.規程の設置 及び改正 3.役員報酬の改定 4.大学の人事 報告 1.今後の新潟産業大学改革支援に資する柏崎市補 助金事業 2.新潟産業大学基金
第 4 回	H28.3.23	1 0 人	2 人	議題 1.平成 28 年度事業計画 2.平成 27 年度第 1 回補 正予算 3.平成 28 年度当初予算 4.「国際交流 会館」跡地売却公募価額の引下げ 5.大学、高 校人事 6.理事、監事、評議員の選任 7.平成 28 年度資金運用管理方針 8. 諸規程の改正 報告 1.新潟産業大学改革プラン
第 5 回	H28.3.23	1 0 人	2 人	議題 1.平成 28 年度事業計画 2.平成 27 年度第 1 回補 正予算 3.平成 28 年度当初予算 4.「国際交流 会館」跡地売却公募価額の引下げ 報告 1.柏崎市「新潟産業大学魅力等向上支援事業補助 金」 2.経常費補助金「経営強化集中支援事業」 の本学選定 3.平成 28 年度入試状況 (大学、高 校) 4.平成 27 年度卒業生就職、進路状況 (大 学、高校)

## 第2部 事業の概要

### I 新潟産業大学

#### 1 大学全般

##### 1. 1 事業方針（平成 25 年度から平成 28 年度）

- (1) 「地域おこし大学」として、経済学的見地からの地域振興の研究を行い、地域の芸術文化などを生かした「まちおこし」等を通じて大学と地域の双方が活性化する方策を検討し実施する。
- (2) 「人づくり大学」として、社会に通用する付加価値を獲得した学生を送り出せるよう、一人ひとりの学生に対して丁寧な教育を行う「面倒見大学」を旨とし、学生自らが自己記録更新や自己研鑽に喜びを見いだせる教育環境を整備する。

##### 1. 2 管理・運営

実施項目	平成 27 年度実施内容
(1)管理体制及び将来計画立案	<ol style="list-style-type: none"><li>① 全学で SWOT 分析を実施した。</li><li>② 「新潟産業大学経営改善計画（平成 27 年度～平成 31 年度）」を策定した。</li><li>③ 学長・副学長等会議において大学の将来構想を検討するとともに冊子「新潟産業大学の公立大学法人化に向けて」を作成した。</li><li>④ 上記③の検討・作成の過程で、「新潟産業大学経営改善計画」を精査し、「目標」「改革の柱」「改革の内容」に整理した「新潟産業大学改革プラン」としてまとめた。</li><li>⑤ 教員の自己点検評価を実施した。</li><li>⑥ 内部監査規程を制定し、内部監査を開始した。</li><li>⑦ 学長を中心とした更なる管理運営体制の確立のため、事務組織の中に学長の特命事項を処理する「学長室」の設置を規定化した。</li></ol>
(2)財務の改善	<ol style="list-style-type: none"><li>① 平成 28 年度春学期入試及び平成 27 年度秋学期入試の結果は以下のとおりである。「2. 5 学生募集及び入学試験」を参照。<ul style="list-style-type: none"><li>・平成 28 年度春学期 1 年次入学生は 115 人で、対前年同期比 12 人の減少となった。</li><li>・平成 28 年度春学期編入学生は 2 人で、対前年同期比 5 人の減少となった。</li><li>・平成 27 年度秋学期 1 年次入学生は 13 人で、対前年同期比 4 人の減少となったが、平成 27 年度秋学期編入学生は 6 人で、対前年同期比 3 人増加となった。</li></ul></li><li>② モンゴル国並びに中国内モンゴル自治区において海外秋学期入試を実施し、留学生を受入れた。詳細は、「2. 5 学生募集及び入学試験」を参照。</li><li>③ 私立大学等経常費補助金特別補助「私立大学等経営強化集中支援事業」の採択を受け 4,100 万円の補助金交付を受けた。</li><li>④ 柏崎市私立大学学生募集支援事業補助金について、平成 26 年度に比して 380 万円増の 630 万円の補助金交付を受けた。</li><li>⑤ 「新潟産業大学教育研究支援募金」を「新潟産業大学基金」に発展させ、約 1,000 万円の寄付金を受け入れた。</li><li>⑥ 期末手当、勤勉手当の減額等により人件費を削減した。</li><li>⑦ 学費減免制度を見直し、奨学費支出削減に着手した。</li><li>⑧ 新潟県中越沖地震により取り壊した大学国際交流会館跡地の早期売却に資するため、公募価額の引き下げを決定した。</li></ol>

### 1. 3 附属図書館

事業項目	平成 27 年度実施内容									
(1)学習・教育・研究支援	<p>①利用満足度の向上 学生及び教職員の図書館利用の満足度向上のため、陳列・展示、レファレンス（資料相談）、閲覧室の環境整備を実施した。</p> <p>②選書ツアーの実施 図書や読書への興味や関心を高めることを目的に、学生による書店での選書ツアー（実地選書）を開催した。 平成 26 年度は新潟工科大学と合同開催したが、平成 27 年度は、それぞれ単独開催とした。実地選書のほか、日本銀行新潟支店での金融講座受講・見学や卒業生経営の飲食店での昼食も日程に加えた。</p> <p>③ツイッターによる図書館の情報発信 図書館公式ツイッターを開設し、図書館からのミニ情報、図書紹介、企画案内等、積極的な情報発信を行った。 図書紹介を掲載したツイートを見た利用者が、当該本を借りるなど、一定の効果が見られた。</p>									
(2)資料の整理・整備・	<p>①配架図書の整理 配架図書の新陳代謝を図る観点から、図書の整理を行った。教職課程や郷土資料、資格取得、就職活動など、目的別に利用者を誘導できるように、各コーナーの特色をさらに高め、図書を充実させた。</p> <p>②図書の除籍 複数冊ある蔵書を中心に図書の除籍作業を行い、図書の整理、書棚のスペース確保・狭隘緩和を図った。</p>									
(3)資料の管理・保存	<p>①蔵書の確認・点検 返却遅延者管理の徹底と蔵書点検の実施で、所蔵の確認と不明本の抽出を行った。平成 27 年度末の不明本冊数は、23 冊となった。</p>									
(4)開館サービス状況	<p>①開館時間：月～金 9:00～19:00 長期休業期間中 9:00～17:00</p> <p>②入館者延べ人数：23,693 人（対前年度比 3,613 人増） 在籍学生数の増加と DVD 利用者数の増加により、入館者延べ人数が大幅に増加したものと分析する。</p> <p>③資料提供 ・貸出数： 2,847 冊（前年度から 331 冊増） ・貸出延べ人数： 1,132 人（うち、学生 561 人） ・他大学図書館との相互協力による資料依頼・資料提供件数</p> <table border="1" data-bbox="568 1749 1118 1861"> <thead> <tr> <th></th> <th>文献複写</th> <th>相互貸借</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>依頼</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>受付</td> <td>27</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>		文献複写	相互貸借	依頼	30	30	受付	27	24
	文献複写	相互貸借								
依頼	30	30								
受付	27	24								

## 1. 4 FD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）

事業項目	平成 27 年度実施内容
(1)FD の推進	<p>①授業改善アンケートの実施            春学期（H27.6.22～H27.6.26）と秋学期（H27.11.16～H27.11.20）の2回、授業アンケートを実施した。            アンケートの結果、高評価であった8科目について「受講生が選ぶベスト授業賞」として表彰した。一方、評価の低い授業に対しては授業改善計画書の作成を義務付け、これを学内掲示した。            また、アンケート結果については、「科目別各回答率分布表」「全体結果グラフ」「クロス集計結果」を本学ホームページに掲載し一般に公開した。また、「授業改善計画書」「アンケート結果に対する教員から学生へのコメント」については学内公開した。「自由記述欄」については、各々担当教員に伝えた。</p> <p>②教員による相互授業見学（H27.10.12～H27.10.23）            FD 委員会が見学授業を指定し、また、指定された授業はアクティブラーニング導入を義務付けた。見学後は、全教員から「見学レポート」を提出させた。            また、「見学レポート」を基に、全教員による「授業見学意見交換会」（H27.11.4、16：30～18：00）を開催し、意見交換を行い個々の授業改善に繋げた。</p> <p>③FD 講演会の開催            ■開催日：平成 27 年 10 月 21 日 15:00～            講 師：宇都宮仁専任講師            テーマ：「新潟大学新任教員研修会」への参加報告            参加数：17 人（欠席 8 人）            ■開催日：平成 27 年 11 月 18 日 15:00～            講 師：河本達毅氏 文部科学省高等教育局大学振興課専門職            テーマ：「今、求められるアクティブ・ラーニングとは」            参加数：19 人（欠席 6 人） ※事務職員も参加</p>
(2)SD の推進	<p>&lt;SD 研修会&gt;            ①新潟工科大学・新潟産業大学合同SD研修会            ■開催日：平成 27 年 9 月 17 日 10:00～12:00            テーマ：「計算書類の読み方」「新しい学校会計基準の概要」            参加数：31 人(うち新潟工科大学参加者 13 人)</p>

	<p>②SD講演会</p> <p>■開催日：平成27年11月18日 15:00～</p> <p>講師：河本達毅氏 文部科学省高等教育局大学振興課専門職</p> <p>テーマ：「今、求められるアクティブ・ラーニングとは」</p> <p>参加数：12人</p> <p>③ゲートキーパー養成講座</p> <p>■開催日：平成28年2月4日 9:15～17:00</p> <p>～自殺危機初期介入スキルワークショップ～</p> <p>参加数：11人</p> <p>④新潟大学スキルアップセミナー</p> <p>■開催日：平成27年9月15日 9:30～17:30</p> <p>テーマ：「業務をマネジメントするスキル」</p> <p>派遣数：1人</p>
--	---

## 1.5 施設開放

事業項目	平成27年度実施内容
(1)大学施設開放	<p>地域に根ざす開かれた大学として、本学施設の利用について、広く地域に呼びかけているが、平成27年度は、延べ7,800人の学外者が本学の施設を利用した。以下、施設別利用日数の集計結果。</p> <p>【開放施設】</p> <p>①体育館 利用日数：延べ107日</p> <p>③テニスコート 利用日数：延べ160日</p> <p>④講堂1日</p> <p>⑤教室他15日</p> <p>⑥駐車場2日</p>

## 1.6 連携協定等締結

事業項目	平成27年度実施内容
(1)地域連携	<p>①平成27年9月1日、柏崎商工会議所・新潟工科大学・新潟産業大学・三者間の包括連携協定を締結した。</p> <p>②平成27年6月、かしわざき広域ビジネスネットワークへの参加</p>
(2)大学間連携	<p>①平成27年7月2日、大正大学と新潟産業大学との大学間連携協定を締結した。</p> <p>②平成27年9月1日、新潟工科大学と新潟産業大学との大学間連携協定を締結した。</p>

## 2 経済学部

### 2. 1 教 育

事業項目	平成 27 年度実施内容
(1) 教学組織改革	<p>① 学長・副学長等会議に教育改革担当の学長補佐を置いた。</p> <p>② 学長・副学長等会議において、本学の存在意義、学部の目標とこれに合致したカリキュラム、「地域おこし大学」の柱、「人づくり大学」の柱、本学の国際化について検討した。</p>
(2) 学士課程教育の質的転換に向けた取組	<p>① 学修時間増の取組            単位修得条件である自学自習時間については、平成 27 年度からシラバスの「準備学習（予習・復習等）」欄に各々授業に必要な自習内容を掲載し実施を促している。            また、「学生授業アンケート」（FD 委員会が、春学期と秋学期の年 2 回実施。）において自学自習時間の実施状況を問う項目を設け実態把握を行った結果、一般講義科目において春学期 44%、秋学期 45%の学生が予習・復習に積極的に取り組んでいる結果であった一方、どちらともいえないとの回答が春学期及び秋学期とも約 35%であった。また、取り組んでいない学生が春学期 22%、秋学期 19%であったことから、自学自習への取り組みについて継続して指導する必要がある。</p> <p>② 教育課程の体系整備            教育課程の体系性については、従来からの「履修モデル」で示すことに加え、平成 27 年度より「科目ナンバリング」を導入し、教育課程における各授業科目の体系的な位置付けと科目間の関連性を明示した。</p> <p>③ 学習達成度把握等の検討            平成 27 年度入学者より「GPA 制度」を導入し、学期及び通算の GPA を成績表に記載することを開始した。GPA は、修得した単位の質を表すことから学習達成度把握の一ツールと考えることができる。3 年後には、全学年が対象となることから、GPA の修学指導への効果的な活用方法等について今後検討する。            用語：GPA（文部科学省ホームページより）            アメリカで行われている学生の成績評価方法の一種。その一般的な取扱いの例とされているものは、以下のとおり。            1. 学生の評価方法として、授業科目ごとの成績評価を 5 段階（本学は S、A、B、C、D）で評価し、それぞれに対して 4、3、2、1、0 のグレードポイントを付与し、この単位当たり平均（GPA、グレード・ポイント・アベレージ）を出す。            2. 単位修得は C でも可能であるが、卒業のためには通算の GPA が 2.0 以上であることが必要とされる。            3. 3 セメスター（1 年半）連続して GPA が 2.0 未満の学生に対しては退学勧告がなされる。ただし、突然勧告がなされるわけではなく、学部長等から学習指導・生活指導等を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となる。            なお、このような取扱いは、1 セメスターに最低 12 単位、最高 18 単位の標準的な履修を課した上で成績評価して行われるのが一般的である。</p> <p>④ 地域に根ざし地域に学ぶ            「ゼミナール」を中心に、実際に現地に行き学習するフィールドワーク形式の授業を実施（延べ 19 授業。）した。フィールドワークの目的は、地域を知り・学び・理解することであり、平成 27 年度は主に柏崎市内</p>



	<p>の文化資本・公共施設・商店街等を訪問した。実際に地域に触れることにより、学生一人一人が各々諸課題を見つけ、今後の地域発展等を主体的に考えるきっかけとなった。</p>
(3) 学習支援の充実	<p>①リメディアル教育の充実について</p> <p>基礎科目の「基礎ゼミナール」、「生活数学」等において、大学生としての基礎知識やプレゼンテーション能力習得のための教育に取り組んだ。</p> <p>また、新入生が大学教育に円滑に移行できるよう、次年度日本人入学予定者（入試合格者）に対する入学前教育（外部専門業者への委託契約による。）を実施したほか、入学予定留学生に対しては入学前教育として日本語テストを課した。</p> <p>②授業欠席者ケアの実施</p> <p>教員は、「学内授業出欠管理システム」により担当学生の授業出欠状況を把握し、3回連続欠席が2科目以上発生した場合は、担当教員（又はCLA）から電話連絡等を行い、欠席の理由や就学意思を確認し必要な指導を行った。また、保護者との「個別面談会」等においても保護者に対し授業出欠情報を提供し欠席の多い学生のケアに取り組んだ。また、各学期の始めには保護者にも各学生の時間表を送付し、授業のある曜日時限に自宅に居ることのないよう協力要請した。欠席学生に対しては早期発見、早期対応を継続する。</p>

## 2. 2 研 究

事業項目	平成 27 年度実施内容																								
(1) 紀要の発行	<p>①経済学部紀要第 45 号 を平成 27 年 6 月に発行した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>執筆者</th> <th>題目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宇都宮 仁</td> <td>柏崎刈羽原子力発電所停止による柏崎経済への経済効果</td> </tr> <tr> <td>橋本 次郎</td> <td>変動相場制下における購買力平価の実証分析—為替レートと相対価格の因果分析</td> </tr> <tr> <td>星野 三喜夫</td> <td>アジアインフラ投資銀行（AIIB）と TPP</td> </tr> <tr> <td>小林 健彦</td> <td>新潟県域に於けるなぞの災害Ⅱ ～古代から中世にかけて発生した巨大地震とその被害、和島と出雲崎の宇奈具志神社の事例～</td> </tr> <tr> <td>堀口 俊二 下斗米 哲明</td> <td>規矩元法別伝一卷・秘八事絵巻の伝来経路と影印</td> </tr> </tbody> </table> <p>②経済学部紀要第 46 号 を平成 28 年 2 月に発行した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>執筆者</th> <th>題目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿部 雅明</td> <td>米本位制地域通貨、風輪通貨の取り組み</td> </tr> <tr> <td>宇都宮 仁 平野 実良 阿部 雅明</td> <td>地域通貨事務局員の学習ツールとしての地域通貨ゲーム：地域通貨ゲームの試行</td> </tr> <tr> <td>八木 直人</td> <td>離散的數量調整過程の代数構造</td> </tr> <tr> <td>小林 健彦</td> <td>浪分けの論理 続篇 ～文化論としての震災への対処～</td> </tr> <tr> <td>アブドゲニィ アブドレヒミ</td> <td>ペニングイオン化電子分光による有機薄膜の分析</td> </tr> </tbody> </table>	執筆者	題目	宇都宮 仁	柏崎刈羽原子力発電所停止による柏崎経済への経済効果	橋本 次郎	変動相場制下における購買力平価の実証分析—為替レートと相対価格の因果分析	星野 三喜夫	アジアインフラ投資銀行（AIIB）と TPP	小林 健彦	新潟県域に於けるなぞの災害Ⅱ ～古代から中世にかけて発生した巨大地震とその被害、和島と出雲崎の宇奈具志神社の事例～	堀口 俊二 下斗米 哲明	規矩元法別伝一卷・秘八事絵巻の伝来経路と影印	執筆者	題目	阿部 雅明	米本位制地域通貨、風輪通貨の取り組み	宇都宮 仁 平野 実良 阿部 雅明	地域通貨事務局員の学習ツールとしての地域通貨ゲーム：地域通貨ゲームの試行	八木 直人	離散的數量調整過程の代数構造	小林 健彦	浪分けの論理 続篇 ～文化論としての震災への対処～	アブドゲニィ アブドレヒミ	ペニングイオン化電子分光による有機薄膜の分析
執筆者	題目																								
宇都宮 仁	柏崎刈羽原子力発電所停止による柏崎経済への経済効果																								
橋本 次郎	変動相場制下における購買力平価の実証分析—為替レートと相対価格の因果分析																								
星野 三喜夫	アジアインフラ投資銀行（AIIB）と TPP																								
小林 健彦	新潟県域に於けるなぞの災害Ⅱ ～古代から中世にかけて発生した巨大地震とその被害、和島と出雲崎の宇奈具志神社の事例～																								
堀口 俊二 下斗米 哲明	規矩元法別伝一卷・秘八事絵巻の伝来経路と影印																								
執筆者	題目																								
阿部 雅明	米本位制地域通貨、風輪通貨の取り組み																								
宇都宮 仁 平野 実良 阿部 雅明	地域通貨事務局員の学習ツールとしての地域通貨ゲーム：地域通貨ゲームの試行																								
八木 直人	離散的數量調整過程の代数構造																								
小林 健彦	浪分けの論理 続篇 ～文化論としての震災への対処～																								
アブドゲニィ アブドレヒミ	ペニングイオン化電子分光による有機薄膜の分析																								

	<table border="1"> <tr> <td>江口 潜</td> <td>あなたは柏崎が好きですか? :2014年度実施「かしわざき住みたい度」調査に見る柏崎の子供たちの心の内</td> </tr> <tr> <td>富山 順子 平野 実良 江川 亮 春川 美香 綱島 正司 真島 和徳 伊藤 正夫 阿部 俊幸 板屋 幸仁</td> <td>柏崎刈羽地域における若者に対する自殺対策の取り組み～大学と連携した普及啓発活動の効果について～</td> </tr> <tr> <td>片岡 直樹</td> <td>新潟県の仏像 (一)</td> </tr> </table>	江口 潜	あなたは柏崎が好きですか? :2014年度実施「かしわざき住みたい度」調査に見る柏崎の子供たちの心の内	富山 順子 平野 実良 江川 亮 春川 美香 綱島 正司 真島 和徳 伊藤 正夫 阿部 俊幸 板屋 幸仁	柏崎刈羽地域における若者に対する自殺対策の取り組み～大学と連携した普及啓発活動の効果について～	片岡 直樹	新潟県の仏像 (一)
江口 潜	あなたは柏崎が好きですか? :2014年度実施「かしわざき住みたい度」調査に見る柏崎の子供たちの心の内						
富山 順子 平野 実良 江川 亮 春川 美香 綱島 正司 真島 和徳 伊藤 正夫 阿部 俊幸 板屋 幸仁	柏崎刈羽地域における若者に対する自殺対策の取り組み～大学と連携した普及啓発活動の効果について～						
片岡 直樹	新潟県の仏像 (一)						
(2)外部からの研究資金	<p>①平成 27 年度科学研究費助成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他大学採択分科学研究費の本学研究分担者配分金</li> <li>ア. 高橋 真一 名古屋大学分</li> <li>イ. 高橋 真一 島根大学分</li> </ul> <p>②内田エネルギー科学振興財団助成金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア. 藤井 信行 「水素エネルギーと燃料電池」、「光のサイエンス」、「光触媒と環境浄化」、「分光シートや偏光シートを用いた光万華鏡作成」他</li> <li>イ. 岡村 宜城 「子供向けサッカースクールの開催」</li> <li>ウ. 平野 実良 「第 2 回高齢者のためのスマートフォン安心安全講習会」</li> </ul>						
(3)附属研究所の設置	<p>附属東アジア経済文化研究所を廃止し、つぎの 2 つの研究所を設置した。 (開設は平成 28 年 4 月 1 日)</p> <p>①柏崎研究所 柏崎を経済、政治、社会、歴史、文化、民俗等の多方面から調査研究し、「柏崎学」の中心拠点を目指す。</p> <p>②モンゴル文化研究所 本学と関係の深い「モンゴル」についての言語、文化、産業等について、日本のモンゴル文化研究や国際交流の拠点を目指す。</p>						

## 2. 3 学生への支援

事業項目	平成 27 年度実施内容
(1)学生行事・学生活動	<p>①学園祭など学生主催行事に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア. 学友会・学生行事実行委員会ミーティングにおいて、学生課職員が学生行事等の企画に対する指導助言を行った。</li> <li>イ. 学園祭の企画・運営について、新規企画や集客を図るための方策、広告・協賛金依頼方法など指導を行った。</li> <li>ウ. 学生企画の「スポーツ大会 (バドミントン)」（9 チームが参加した。）や「クリーンデー柏崎 in 産大」、「クリスマスパーティー」などに助言を行った。</li> </ul> <p>②公認部・サークル活動の活性化</p>

大学公認部及びサークル活動の活性化を推進する一環として新入生の加入率をあげようと努めたが、学生の加入率は、平成 26 年度 74%から平成 27 年度 64%に減少した。

- ア. 新入生学外合宿研修において、先輩部員によるサークルの紹介を実施するとともに、学生課にて新入生に対し「課外活動見学会の希望調査」を実施し、新入生に部・サークル加入を働きかけた。
- イ. 新年度ガイダンス及び 1 年次必修科目「基礎ゼミナール」の授業時に部活動・サークル活動の意義を説明した。

### ③学生相談の充実

学生の相談には、教員による担任制(基礎ゼミ、専門ゼミ教員が担任)、医務室対応、C L A (事務職員キャンパスライフアドバイザー) 設置等種々窓口を用意し対応した。また、学生生活アンケートの実施や「学生意見箱」(記名・匿名選択可)等により修学・生活状況の把握に取り組んだ。さらに、規程に定める「学生支援協力会議」により、心身に障がいを持つ学生に対し適切な対応を行った。

- ア. 学生課医務室職員(看護師・保健師)が、健康相談及びメンタルヘルスの対応を実施した。
- イ. 学校医(精神科医師 1 人)と専門医(心身医療科医師 1 人)、カウンセラー(1 人)によるカウンセリングを毎月 3~5 回実施した。
- ウ. 基礎ゼミ担任と C L A 協働で学生生活個別面談を実施した。
- エ. 全教員が「オフィスアワー」を実施した。
- オ. 「学生生活アンケート」や「学生意見箱」により学生からの意見・要望収集を行った。投書に対しては学生掲示板に回答を掲示した。

### (2)経済的支援及び学費軽減

※外国人留学生については 6. 留学生支援において報告。

- ①経済的理由により修学困難な学生の授業料を軽減した。
- ②人物・学業成績優秀な学生の授業料を軽減した。
- ③スポーツ・文化活動で活躍する学生の授業料を軽減した。
- ④平成 28 年度学費軽減対象者を決定した。

【表】平成 28 年度に学費軽減を受ける学生数

平成 28 年度の学年→		1 年	2 年	3 年	4 年
経済的理由	授業料半額減免	9	4	8	5
学業成績優秀者	授業料全額免除(4年間)	2	4	1	5
	授業料半額減免(4年間)	6	5	—	—
	授業料半額減免(2年間)	1	3	—	—
	授業料半額減免(1年間)	1	5	5	3
スポーツ・文化活動	授業料全額免除(4年間)	8	4	8	2
	授業料半額減免(4年間)	14	19	—	—
	授業料半額減免(2年間)	13	10	6	5
	授業料半額減免(1年間)	0	1	1	4
資格特待	授業料半額減免	0	1	0	—

- ⑤大学契約借上げアパートを学生に安価で提供し、経済的負担軽減を行った。

<p>(3)学外団体との連携</p>	<p>①スポーツ競技団体や文化団体との連携支援 水球部、卓球部、ライフセービング部、バスケットボール部、芸術文化部、写真部、茶道部、書道部、吹奏楽部が、地域の団体や高校等と合同練習や連携活動を実施するための支援を行った。</p> <p>②地域のボランティア活動等諸団体との連携支援 各種団体からの学生に対するボランティア活動の依頼に対し、学生課が窓口となり、ポスター掲示等学生周知を行った。学友会・学生行事実行委員会、青年赤十字奉仕団、水球部・卓球部・ライフセービング部・サッカー部などが柏崎地域でのボランティア行事に参加するための支援を行った。</p> <p>③父母の会及び校友会との連携支援 ア. 父母の会総会時に、学生の修学状況等を保護者に報告した。また、就職情報企業から講師を招き、保護者に対し就職に関する情報提供を行った。総会后、保護者と教職員の懇親会を開催した。その他、父母の会各支部総会に教員を派遣した。 イ. 校友会会報に、課外活動等で活躍する学生の広報支援を行った。</p> <p>④新潟工科大学との交流支援 柏崎市民有志による2大学新入生合同歓迎会の企画及び運営を学友会学生と教職員が協働で行った。</p>
<p>(4)就職支援</p>	<p>①徹底した個別指導体制による90%を超える就職希望率と100%の就職率の達成 個別指導を徹底することにより、就職率100%（日本人学生）を達成した。就職希望率は89.3%と0.7P目標を下回ったが、高率を維持することができた。</p> <p>②障がい等を持つ学生の支援体制強化 医務室との連携により障がい者等への適切な進路指導を実施した。</p> <p>③就職支援セミナー等の見直し 平成29年3月卒業予定者の就職活動スケジュールの再変更（前倒し）に対し、現行の就職支援プログラムが適切であると判断し、実施時期や内容等の変更は行わないこととした。</p> <p>④卒業生データベースの整備 本学開学からの卒業生の就職情報について、アクセスによるデータベース化を完了した。</p> <p>⑤簿記受験者の増加と合格率のアップを図る 平成28年度より、簿記授業科目と連携し、正課外の簿記検定講座への受講者誘導を図ると共に、ビギナーへの学習効果を意識した新たな講座を設計、運用を確定した。</p>

(5)資格検定等支援 ～学生の付加価値 づくり～	<p>学生の資格・検定等の取得支援を以下のとおり実施した。</p> <p>1. 対策講座の実施</p> <p>①日商簿記検定3級講座 全2回(延16コマ) ...受講者数 延 3人  ②経営学検定講座 全2回(延12コマ) ...受講者数 延 6人  ③MOS講座 全4回(延40コマ) ...受講者数 延 23人  ④TOEIC対策講座 全2回(延16コマ) ...受講者数 延 15人  ⑤公務員講座 全1回(13コマ) ...受講者数 延 50人  ⑥福祉住環境コーディネーター試験受験対策講座 全1回(15コマ)  ...受講者数延 3人</p> <p>2. 検定試験の学内実施</p> <p>①中国語検定 全3回 ...受検者数 延 8人  ②経営学検定 全2回 ...受検者数 延 14人  ⑤ERE 経済学検定 全2回 ...受検者数 延 8人</p> <p>3. 資格等取得奨励奨学金の給付</p> <p>14人に奨学金を給付した。給付を受けた学生の内訳は、「日商簿記検定」3級3人、「宅地建物取引主任者資格」1人、TOEIC895点1人、「経営学検定」初級6人・中級1人、秘書検定2級1人、英語検定2級1人だった。</p>
--------------------------------	--

## 2. 4 留学生支援

事業項目	平成27年度実施内容
(1)生活及び学習支援	<p>①学生チューターによる生活・学習指導  チューター8人(日本人6人・中国留学生1人・モンゴル留学生1人)が、週1回、チューター・ミーティングを行い、留学生との交流活動及び生活指導等の計画を立て実施することを支援指導した。</p> <p>②教職員による生活・学習相談  1年次、2年次の「基礎ゼミナール」において、担任教員とCLA(キャンパスライフアドバイザー)が留学生の個別面談を実施し、生活面と学習面の指導を行った。ゼミナール担当教員、学生課職員等が留学生の相談窓口となって、個別相談にも随時対応した。</p> <p>③留学生の生活現状調査  本年度の新たな取り組みとして、留学生に月2回の「生活現状報告書」の学生課提出を義務付け、留学生の動静の確認、問題点の早期発見等に努めた。</p> <p>④留学生ガイダンスでの生活指導  在校生には4月に、「留学生ガイダンス」を実施した。新留学生には入学時期に合わせて、その都度、「留学生ガイダンス」を実施した。その際、新留学生には、母国の在校生を通訳として配置。また、1月には卒業予定者に向けて卒業前後の諸手続きに関する説明資料を学生課窓口にて個々に説明し、全員に手渡した。</p> <p>⑤日本語補習授業の実施  日本語能力不足の留学生に対し、学生チューターによる日本語補習授業を実施した。  春学期：4月23日～7月29日、4クラス週11コマ、5人受講  秋学期：10月20日～12月21日、7クラス週8コマ、10人受講</p> <p>⑥日本語能力検定試験受験の奨励  年2回行われる日本語能力検定試験の受験を希望する留学生に対し、大学で受験申込を代行した。また、N1・N2試験対策説明会及び模擬試</p>

	<p>験を実施した。</p> <p>春学期：26人受験 N1 検定交換留学生等 2人合格 N2 検定 5人合格</p> <p>秋学期：22人受験 N1 検定交換留学生等 2人合格 N2 検定 2年 2人合格。</p> <p>⑦入国管理局に対する在留関連申請の取次業務 平成 27 年の申請取次件数は、在留資格更新を 27 件（中国 12、ベトナム 11、モンゴル 1、ネパール 1、コスタリカ 1、パキスタン 1）、在留資格変更を 1 件（中国 1）、資格外活動許可を 29 件（中国 16、ベトナム 10、ネパール 1、コスタリカ 1、パキスタン 1）行った。その他、在留資格認定証明書交付申請を 50 件（中国 35、台湾 1、モンゴル 11、ベトナム 3）行った。</p>
(2)経済的支援	<p>①私費外国人留学生授業料減免 留年者を除く私費外国人留学生で、経済的理由による減免申請の許可が認められた留学生の授業料を 40%減免した。</p> <p>②日本語能力試験合格者（N1・N2）の学費減免 N1、N2 に合格した外国人留学生の以後の学期の学費をそれぞれ減免した。なお、減免率は、授業料が N1・N2 合格者とも 50%減免。教育充実費が N1 合格者全額免除、N2 合格者 40%減免である。</p> <p>③私費外国人留学生への学習支援金を給付 2、3 年生で、他の奨学金を受給していない留学生を対象とし、申請のあった留学生のうち成績優秀者（評価係数により審査）上位 1 人に対して、学習支援金として 80,000 円を給付した。</p> <p>④新入学外国人留学生全員に住居費補助及び通学費等補助を給付 日本での学習及び生活を円滑に始められるようにするため、新入学留学生全員に住居費補助と通学費等補助を給付した。 秋学期入学者から住居費補助は従来年額 120,000 円を 96,000 円に変更。通学費補助については、海外入学者は従来通り年額 30,000 円とし、国内入学者は 15,000 円とした。</p> <p>⑤外国人留学生向け宿舎の情報提供 アパート物件情報の収集時に、留学生入居の可否を問い合わせ、127 室の入居可の物件情報を新入留学生に提供した。</p> <p>⑥資格外活動の法令順守指導およびアルバイト求人確保 資格外活動についての法令順守指導をガイダンスや掲示で行うとともに、年 2 回の「アルバイト届」提出時にも重ねて指導した。また、留学生の日本語能力に応じたアルバイト求人確保に努めた。</p>

(3)各種交流支援

①日本人学生と留学生との交流支援

新入留学生歓迎会（観桜会）、忘年会、県内研修旅行（新潟市マンガ・アニメ情報館、新潟市アグリパーク、新潟県立歴史博物館）を実施し、日本人学生と留学生との交流の機会とした。

②地域社会及び地域の小中学校との国際交流支援

小・中学校における総合学習授業や文化活動団体の行事などに積極的に参加し、母国の文化紹介や相互交流を行うよう支援した。

【地域における国際交流の実績】

日	派遣先	内容	参加留学生数
4月14日	柏崎市石井神社	モンゴルの唄の披露、モンゴルの馬頭琴の演奏	2人
6月25日	柏崎第一中学校（1年生）	日常の中国と日本の違い、柏崎（日本）で感じたこと	2人
6月28日	高田コミセン	留学生との交流会	5人
8月8,9日 8月22,23日	柏崎地域国際化協会	ホームステイ	7人
10月26日	高田コミセン	ほっとたかだコミセン祭り	4人
11月6日、13日、12月4日	県立柏崎工業高等学校	修学旅行先（台湾）の見どころなどの事前説明	のべ3人
11月15日	高田コミセン	芸能大会（チベットの唄、民族衣装の披露）	2人
11月20日	刈羽小学校全学年	国際セミナー（児童との交流会）	3人

③留学生懸賞論文応募指導

柏崎中央ロータリークラブ主催の留学生懸賞論文【テーマ『留学生から見た柏崎』】が行われ、本学より9人の応募があり、優秀賞1人、佳作1人、努力賞1人、参加賞6人の結果となった。入賞した論文（優秀賞）は、地域の日刊新聞「柏崎日報：平成28年2月13日、15日」に掲載された。

## 2. 5 学生募集及び入学試験

事業項目	平成 27 年度実施内容
<p>(1)募集広報の改善</p> <p>参考：年度の捉え方 入学試験としては、平成 27 年度秋学期入試及び平成 28 年春学期入試であり、これに向けて、平成 27 年度において学生募集活動を展開した。</p>	<p>①オープンキャンパスの充実</p> <p>ア. 第 1 回開催日を約 1 か月早めて 6 月 13 日に実施し、早期に進路を決定する専門学校進学検討者の参加を取り込む計画であったが、参加者は生徒 8 人（内 3 年生 6 人）、保護者 5 人と少なかった。</p> <p>イ. 本学の魅力や強みを在学生から受験生と保護者に伝えるため、在学生による大学概要説明（平成 26 年度から開始）を実施した。参加者のアンケートでは、「興味があり良かった」の回答は、「在学生による大学・学科説明」が 47% でトップとなり、効果を確認した。</p> <p>ウ. オープンキャンパス参加者に学園祭の模擬店チケットを配付し、本学へのリピート来校を目指した。来校者は 8 人程度に留まり、平成 25 年度、平成 26 年度に比べ減少した。</p> <p>エ. 学園祭でミニオープンキャンパスを開催した。参加者は 1 人に留まり平成 26 年度の 10 人から大幅に減少した。この参加者 1 人は受験に繋がった。減少の原因のひとつとして、平成 27 年度は案内葉書を郵送しなかったことが考えられる。</p> <p>②進学広報媒体の見直しと強化</p> <p>ア. 広報媒体については精査して参画契約した。 新たな取り組みは以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内主要 14 駅の 30 面のアドビジョンに本学情報掲載</li> <li>・県内 JR、北越急行、えちごときめき鉄道車内広告実施</li> <li>・新潟市内運行路線バス 2 台に車外乗車口広告を設置</li> <li>・長野電鉄長野駅待合室での画像広告</li> <li>・新潟県内高校配布冊子広告</li> <li>・県内の受験生に対し、入試案内を兼ねた年賀状の発送</li> </ul> <p>資料請求数は増加傾向にあり、平成 27 年度は平成 26 年度に対し 22% 増加。</p> <p>イ. 高校生が最もよく利用するスマートフォンに対応したオープンキャンパス特設ページを作成し掲載した。</p> <p>ウ. 女子生徒向けの広報を継続した。女子生徒向けパンフレット第 5 号を作成し、県内高校への配布や資料請求者への送付、ホームページへの掲載を行った。平成 28 年度入学の日本人女子入学比率は対前年度比 4 ポイント増の 29% となった。</p> <p>エ. 社会人入試については平成 26 年 10 月入学において 1 年次入学 2 人、編入学 1 人、平成 27 年 4 月入学では、1 年次入学 1 人、編入学 1 人だったが、平成 27 年 10 月入学及び平成 28 年度 4 月入学に対応する入試では志願者を掘り起こすことができなかった。</p> <p>③教職員の高校訪問等による大学情報の丁寧な周知 教員と事務職員がペアを組んで、高校訪問や進学説明会参加を行い、それぞれの観点から、本学の教育内容や学生支援策、入試制度等について説明した。また、重点校には教員のみでの訪問も実施し、説明を行った。</p> <p>④公立大学法人化のアピール 公立大学法人化を目指す本学の考え方を、ホームページ掲載や資料</p>



	の学内設置および資料請求者への送付を行った。
(2)入試制度の見直し	<p>強化指定部の入学者増加</p> <p>ア. スポーツ推薦入試の募集枠を 25 人から 35 人に増やし学生募集を行った。スポーツ推薦入試による入学者は前年度より 1 人減の 30 人となった。ただし、AO 入試等その他の入試区分において、強化指定部等への入部予定者が 9 人入学し、スポーツ関連入学者は前年同数の 39 人となった。</p> <p>イ. 強化指定部別に全部員が写ったオープンキャンパス用ポスターを作成し、オープンキャンパス参加者増を図った。この結果、県内外から各部入部予定者 15 人が参加した。</p> <p>ウ. 水球部を AO 入試特待制度対象部に追加し受験者増加を図ったが、27 年度はその他の入試を利用した入学者のみとなった。</p>
(3) 外国人留学生募集の改善	<p>国内外の外国人留学生募集活動を強化</p> <p>ア. 入試課に中国内モンゴル自治区出身の学生募集主幹を配置し、中国やモンゴルの留学生募集を強化した結果、秋学期・春学期合わせて前年を 13 人上回る 36 人が入学した。</p> <p>イ. 国内では東京の業者と業務委託契約を締結した結果、秋学期・春学期合わせて前年度を 14 人上回る 24 人が入学した。</p> <p>ウ. 新たに中国、台湾、ベトナムの日本語学校と覚書を締結し、入学に繋げた。</p>

## 2. 6 地域貢献・生涯学習

事業項目	平成 27 年度実施内容																																																																																																																																																																																																																						
(1)生涯学習事業	<p data-bbox="443 376 671 407">①聴講講座の実施</p> <p data-bbox="472 414 1342 445">本学の正規授業を「聴講講座（有料）」として一般市民に開放した。</p> <p data-bbox="472 450 1445 698">春学期は 89 講座を開放し 30 講座において聴講があり、秋学期は 78 講座を開放し 27 講座に聴講があった。柏崎・刈羽地域以外の地域に対する聴講講座案内は、チラシ配布やダイレクトメール等により行い、併せて、「友の会」（本学生涯学習センター支援組織）への加入勧誘を図り、会員数は平成 28 年 3 月末時点で 42 人となった。また、平成 27 年 11 月 1 日の学園祭開催時に大学キャンパスにおいて毎年恒例の「友の会意見交換会」を開催し、7 人の友の会会員が出席した。学長と聴講講座担当教員 4 人が出席し意見交換を行った。</p> <p data-bbox="486 736 724 768">ア. 聴講講座（春）</p> <table border="1" data-bbox="443 770 1441 1868"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>講座名</th> <th>講師名</th> <th>受講者数</th> <th>期間</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>越佐文化論</td><td>三井田 忠明</td><td>5</td><td>4/13～7/27</td><td>15</td></tr> <tr><td>2</td><td>民法 I</td><td>山崎 修</td><td>3</td><td>4/13～7/27</td><td>15</td></tr> <tr><td>3</td><td>日本国憲法</td><td>小島 伸之</td><td>1</td><td>4/13～7/27</td><td>15</td></tr> <tr><td>4</td><td>法学</td><td>小島 伸之</td><td>1</td><td>4/13～7/27</td><td>15</td></tr> <tr><td>5</td><td>基礎中国語 A</td><td>詹 秀娟</td><td>2</td><td>4/14～7/28</td><td>15</td></tr> <tr><td>6</td><td>英会話 A</td><td>モルト ジェリーアレン</td><td>1</td><td>4/14～7/28</td><td>15</td></tr> <tr><td>7</td><td>英語表現 A</td><td>黒川 敬三</td><td>1</td><td>4/14～7/28</td><td>15</td></tr> <tr><td>8</td><td>国際金融論</td><td>宇都宮 仁</td><td>2</td><td>4/14～7/28</td><td>15</td></tr> <tr><td>9</td><td>数学</td><td>堀口 俊二</td><td>2</td><td>4/14～7/28</td><td>15</td></tr> <tr><td>10</td><td>基礎韓国語会話 A</td><td>蓮池 薫</td><td>1</td><td>4/8～7/29</td><td>15</td></tr> <tr><td>11</td><td>英語講読 A</td><td>黒川 敬三</td><td>3</td><td>4/8～7/29</td><td>15</td></tr> <tr><td>12</td><td>アメリカ事情と英語</td><td>沼岡 努</td><td>4</td><td>4/8～7/29</td><td>15</td></tr> <tr><td>13</td><td>財務諸表論</td><td>土田 茂博</td><td>1</td><td>4/8～7/29</td><td>15</td></tr> <tr><td>14</td><td>簿記 I</td><td>鹿住 拓郎</td><td>1</td><td>4/8～7/29</td><td>15</td></tr> <tr><td>15</td><td>地誌</td><td>沼岡 努</td><td>2</td><td>4/9～7/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>英語演習 A</td><td>星野 三喜夫</td><td>4</td><td>4/9～7/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>17</td><td>欧米文化事情</td><td>梅比良 眞史</td><td>3</td><td>4/9～7/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>18</td><td>世界史概説</td><td>沼岡/ウリジバヤル</td><td>2</td><td>4/9～7/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>19</td><td>中国語演習 A</td><td>詹 秀娟</td><td>5</td><td>4/9～7/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>20</td><td>モンゴル文学と草原</td><td>ウリジバヤル</td><td>2</td><td>4/9～7/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>21</td><td>韓国語会話 A</td><td>金 光林</td><td>4</td><td>4/9～7/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>22</td><td>中国語会話 A</td><td>詹 秀娟</td><td>1</td><td>4/9～7/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>23</td><td>心理学</td><td>岡田 奈緒子</td><td>4</td><td>4/9～7/23</td><td>15</td></tr> <tr><td>24</td><td>西洋の芸術</td><td>梅比良 眞史</td><td>2</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>25</td><td>社会学</td><td>梅澤 精</td><td>1</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>26</td><td>日本の芸術</td><td>片岡 直樹</td><td>1</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>27</td><td>奈良美術への誘い I</td><td>片岡 直樹</td><td>4</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>28</td><td>中国文化事情</td><td>詹 秀娟</td><td>1</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>29</td><td>日本史 I</td><td>小林 健彦</td><td>1</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr><td>30</td><td>食文化論</td><td>梅比良 眞史</td><td>2</td><td>4/10～7/24</td><td>15</td></tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>受講者計</td> <td>67</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="472 1901 710 1933">イ. 聴講講座（秋）</p> <table border="1" data-bbox="443 1935 1441 2065"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>講座名</th> <th>講師名</th> <th>受講者数</th> <th>期間</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人文地理学Ⅱ</td> <td>沼岡 努</td> <td>2</td> <td>9/28～1/25</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>環境とエネルギー</td> <td>アプトゲニ アブ</td> <td>1</td> <td>9/28～1/25</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>					No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数	1	越佐文化論	三井田 忠明	5	4/13～7/27	15	2	民法 I	山崎 修	3	4/13～7/27	15	3	日本国憲法	小島 伸之	1	4/13～7/27	15	4	法学	小島 伸之	1	4/13～7/27	15	5	基礎中国語 A	詹 秀娟	2	4/14～7/28	15	6	英会話 A	モルト ジェリーアレン	1	4/14～7/28	15	7	英語表現 A	黒川 敬三	1	4/14～7/28	15	8	国際金融論	宇都宮 仁	2	4/14～7/28	15	9	数学	堀口 俊二	2	4/14～7/28	15	10	基礎韓国語会話 A	蓮池 薫	1	4/8～7/29	15	11	英語講読 A	黒川 敬三	3	4/8～7/29	15	12	アメリカ事情と英語	沼岡 努	4	4/8～7/29	15	13	財務諸表論	土田 茂博	1	4/8～7/29	15	14	簿記 I	鹿住 拓郎	1	4/8～7/29	15	15	地誌	沼岡 努	2	4/9～7/23	15	16	英語演習 A	星野 三喜夫	4	4/9～7/23	15	17	欧米文化事情	梅比良 眞史	3	4/9～7/23	15	18	世界史概説	沼岡/ウリジバヤル	2	4/9～7/23	15	19	中国語演習 A	詹 秀娟	5	4/9～7/23	15	20	モンゴル文学と草原	ウリジバヤル	2	4/9～7/23	15	21	韓国語会話 A	金 光林	4	4/9～7/23	15	22	中国語会話 A	詹 秀娟	1	4/9～7/23	15	23	心理学	岡田 奈緒子	4	4/9～7/23	15	24	西洋の芸術	梅比良 眞史	2	4/10～7/24	15	25	社会学	梅澤 精	1	4/10～7/24	15	26	日本の芸術	片岡 直樹	1	4/10～7/24	15	27	奈良美術への誘い I	片岡 直樹	4	4/10～7/24	15	28	中国文化事情	詹 秀娟	1	4/10～7/24	15	29	日本史 I	小林 健彦	1	4/10～7/24	15	30	食文化論	梅比良 眞史	2	4/10～7/24	15			受講者計	67			No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数	1	人文地理学Ⅱ	沼岡 努	2	9/28～1/25	15	2	環境とエネルギー	アプトゲニ アブ	1	9/28～1/25	15
No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数																																																																																																																																																																																																																		
1	越佐文化論	三井田 忠明	5	4/13～7/27	15																																																																																																																																																																																																																		
2	民法 I	山崎 修	3	4/13～7/27	15																																																																																																																																																																																																																		
3	日本国憲法	小島 伸之	1	4/13～7/27	15																																																																																																																																																																																																																		
4	法学	小島 伸之	1	4/13～7/27	15																																																																																																																																																																																																																		
5	基礎中国語 A	詹 秀娟	2	4/14～7/28	15																																																																																																																																																																																																																		
6	英会話 A	モルト ジェリーアレン	1	4/14～7/28	15																																																																																																																																																																																																																		
7	英語表現 A	黒川 敬三	1	4/14～7/28	15																																																																																																																																																																																																																		
8	国際金融論	宇都宮 仁	2	4/14～7/28	15																																																																																																																																																																																																																		
9	数学	堀口 俊二	2	4/14～7/28	15																																																																																																																																																																																																																		
10	基礎韓国語会話 A	蓮池 薫	1	4/8～7/29	15																																																																																																																																																																																																																		
11	英語講読 A	黒川 敬三	3	4/8～7/29	15																																																																																																																																																																																																																		
12	アメリカ事情と英語	沼岡 努	4	4/8～7/29	15																																																																																																																																																																																																																		
13	財務諸表論	土田 茂博	1	4/8～7/29	15																																																																																																																																																																																																																		
14	簿記 I	鹿住 拓郎	1	4/8～7/29	15																																																																																																																																																																																																																		
15	地誌	沼岡 努	2	4/9～7/23	15																																																																																																																																																																																																																		
16	英語演習 A	星野 三喜夫	4	4/9～7/23	15																																																																																																																																																																																																																		
17	欧米文化事情	梅比良 眞史	3	4/9～7/23	15																																																																																																																																																																																																																		
18	世界史概説	沼岡/ウリジバヤル	2	4/9～7/23	15																																																																																																																																																																																																																		
19	中国語演習 A	詹 秀娟	5	4/9～7/23	15																																																																																																																																																																																																																		
20	モンゴル文学と草原	ウリジバヤル	2	4/9～7/23	15																																																																																																																																																																																																																		
21	韓国語会話 A	金 光林	4	4/9～7/23	15																																																																																																																																																																																																																		
22	中国語会話 A	詹 秀娟	1	4/9～7/23	15																																																																																																																																																																																																																		
23	心理学	岡田 奈緒子	4	4/9～7/23	15																																																																																																																																																																																																																		
24	西洋の芸術	梅比良 眞史	2	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																		
25	社会学	梅澤 精	1	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																		
26	日本の芸術	片岡 直樹	1	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																		
27	奈良美術への誘い I	片岡 直樹	4	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																		
28	中国文化事情	詹 秀娟	1	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																		
29	日本史 I	小林 健彦	1	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																		
30	食文化論	梅比良 眞史	2	4/10～7/24	15																																																																																																																																																																																																																		
		受講者計	67																																																																																																																																																																																																																				
No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数																																																																																																																																																																																																																		
1	人文地理学Ⅱ	沼岡 努	2	9/28～1/25	15																																																																																																																																																																																																																		
2	環境とエネルギー	アプトゲニ アブ	1	9/28～1/25	15																																																																																																																																																																																																																		

		ドレミ			
3	英会話 B	モト ジェリアン	2	9/29～1/26	15
4	日本経済論	江口 潜	1	9/29～1/26	15
5	英語表現 B	沼岡 努	1	9/29～1/26	15
6	フードビジネス論	片桐 民生	1	9/29～1/26	15
7	基礎中国語 B	詹 秀娟	2	9/29～1/26	15
8	金融論	宇都宮 仁	1	9/29～1/26	15
9	比較文化論	梅比良 眞史	3	9/29～1/26	15
10	スポーツ実習 A (卓球)	小黒 裕二	1	9/29～1/26	15
11	英語講読 B	黒川 敬三	4	9/30～1/27	15
12	基礎韓国語会話 B	蓮池 薫	1	9/30～1/27	15
13	簿記Ⅱ	鹿住 拓郎	1	9/30～1/27	15
14	簿記演習Ⅰ	鹿住 拓郎	1	9/30～1/27	15
15	英語演習 B	星野 三喜夫	3	9/24～1/21	15
16	満州国とモンゴル	ウリジバヤル	2	9/24～1/21	15
17	韓国語会話 B	金 光林	2	9/24～1/21	15
18	中国語会話 B	詹 秀娟	4	9/24～1/21	15
19	ヘルスサイエンス	岡田 奈緒子	3	9/24～1/21	15
20	生涯学習概論	片岡 直樹	1	9/24～1/21	15
21	経済成長論	阿部 雅明	1	9/25～1/22	15
22	男女共同参画社会論	梅澤 精	1	9/25～1/22	15
23	東洋の芸術	片岡 直樹	1	9/25～1/22	15
24	韓国文化事情	蓮池 薫	1	9/25～1/22	15
25	日本の伝統芸能	三井田 忠明	2	9/25～1/22	15
26	日本史Ⅱ	小林 健彦	1	9/25～1/22	15
27	奈良美術の世界Ⅱ	片岡 直樹	6	9/25～1/22	15
		受講者計	50		

ウ. 資格取得のための聴講講座

「TOEIC 受験対策聴講講座」を春学期と秋学期に行った。

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	2015 春学期 TOEIC 受験対策聴講講座	星野 三喜夫	4	5/25～7/13	8
2	2015 秋学期 TOEIC 受験対策聴講講座	星野 三喜夫	5	9/28～11/30	8
		受講者計	9		

②連携講座の実施

行政や各機関との連携を図り、柏崎市主催の「かしわざき市民大学」や長岡市主催の「まちなかキャンパス長岡」、「上越ケーブルビジョン」のプログラムに教員を派遣した。本学学生 2 人も「かしわざき市民大学」の講座で講師を務めた。

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	日本美術史講座～奈良美術への誘い～ (かしわざき市民大学)	片岡 直樹	59	6/5,12,19,26	4
2	現代アメリカ事情 (かしわざき市民大学)	星野 三喜夫	27	6/23,30,7/7,14	4
3	日本と現代のモンゴル (かしわざき市民大学)	ウリジバヤル	16	7/8,22,29,8/5	4
4	周辺からの東アジアと日本 台湾の歴史・言語・文化/台湾人の生活文化をもっと知ろう (かしわざき市民大学)	詹 秀娟	30	10/2,9	2

5	周辺からの東アジアと日本 グローバル化する中国朝鮮族/ 中国東北部の今をもっと知ろ う (かしわざき市民大学)	金 光林	30	10/16,30	2
6	かしわざきを知る タイムスリップ柏崎～写真で 見る柏崎の昔と今 (かしわざき市民大学)	経済経営学科 2年 山岸春香 穴澤伶奈	15	10/23	1
7	かしわざきを知る 柏崎の若者の「柏崎住みたい 度」 (かしわざき市民大学)	江口 潜	18	11/12	1
8	日本古来の仏像・神像 (まちなかキャンパス長岡)	片岡 直樹	30	4/10,17,24,5/1	4
9	大相撲いろはの「い」 (まちなかキャンパス長岡)	片岡 直樹	20	12/11	1
10	奈良美術の世界-薬師寺の美術- 薬師寺の歴史/薬師寺の彫刻① (上越ケーブルビジョン) 公開講座	片岡 直樹	30	10/2	2
11	奈良美術の世界-薬師寺の美術- 薬師寺の彫刻②/薬師寺の絵 画・工芸品 (上越ケーブルビジョン) 公開講座	片岡 直樹	30	10/9	2
		受講者計	305		

### ③内田エネルギー科学振興財団助成事業による講座開催

No.	講 座 名	講 師 名	期 日	回 数
1	光万華鏡の工作(柏崎親子ワン ダーランド実演実習出展)	アブドゲニィ アブドレ ヒミ/藤井信行	8/2	1
2	地球温暖化と省エネ技術—二 酸化炭素と LED(柏崎フォー ラムワークショップ)	アブドゲニィ アブドレ ヒミ/藤井信行	10/24	1
3	水素燃料電池の実演・光万華鏡 の作製(新潟産業大学学園祭)	アブドゲニィ アブドレ ヒミ/藤井信行	10/31	1
4	高齢者のためのスマートフォ ン安心安全講習会	平野 実良	10/31,3/17,19	3
5	子供向けサッカースクール	サッカー部(岡村 亘城)	8/23,24	2

### ④授業の一般公開

有識者や専門家を招いて実施した特別授業を、一般公開した。平成 27 度は以下のとおり公開した(無料)。

■公開日時：平成 27 年 6 月 3 日(水) 1 限 9:15~10:45

授業科目：「財政学」(授業担当教員 宇都宮仁 専任講師)

特別講師：佐藤正之 氏(財務省関東財務局総務部長)

講演テーマ：「ニッポンの財政『今』と『これから』」

■公開日時：平成 27 年 12 月 15 日(火) 3 限 13:15~14:45

授業科目：「金融論」(授業担当教員宇都宮仁専任講師)

特別講師：山口廣秀 氏

(日興リサーチセンター株式会社理事長、前日本銀行副総裁、)

講演テーマ：「物価の話」

<p>(2)青少年国際経済人育成事業 (新潟県ロータリークラブ寄付金原資)</p>	<p>①地元ラジオ FM ピッカラでの放送 柏崎のコミュニティ・ラジオ「FM ピッカラ」の番組「ホワイト・ボード」(月3回・金曜日 19:00~20:00)に本学学生が出演するとともに、企画制作にも携わった。</p> <p>②「地球くらぶ」(国際教養体験講座) イベントを実施 地元の児童クラブを訪問して東アジアの言語や文化を紹介するイベント「地球くらぶ」を2回開催した。 ア. 東部児童クラブ 日時:平成27年8月10日(月)9:30~11:30 場所:東部児童クラブ 参加児童数:48人 イ. 大洲児童クラブ 日時:平成27年8月10日(月)13:00~15:30 場所:大洲児童クラブ 参加児童数:23人</p> <p>③プレゼンテーション及び自己アピール能力育成事業 デザインソフト Creative Cloud を学生のプレゼン・自己アピール能力育成ツールとして活用した。キャラクターやシンボルマーク、広報誌等の制作に関する講習会や演習を通じ情報発信力の向上を図った。演習では本格的なデザインソフトの操作法の習得も積極的に取り入れ、地域の魅力や自身の活動を PR するコンテンツ制作を行った。</p> <p>④地域通貨事業 阿部ゼミナールの学生を中心に稲作を行い、米本位制地域通貨の原資とし、大学の様々なボランティア活動に参加した学生に地域通貨を交付し、大学学生食堂や地元協力店の中で流通させた。また収穫した米の一部で地元菓子舗新野屋とのコラボ商品「あじろ焼き“たな米”“風輪”」を作った。</p> <p>⑤地域発信研修事業 地域通貨事業で作ったコラボ商品「あじろ焼き“たな米”“風輪”」をはじめ、同様に大学のゼミナールと地元企業で共同開発した「縄文クッキー」や「日本酒青濤」を出展商品として、5月28日(木)から6月2日(火)の間、新宿高島屋で開かれた「大学は美味しい!!」フェアに参加した。同フェアには教員5人、学生22人が参加し販売した。</p> <p>⑥海外・国内研修 国際人としての資質とコミュニケーション能力を育成する目的で、日本文化視察研修(東京)を実施した。</p>
<p>(3)柏崎市・新潟産業大学・新潟工科大学連携協定に基づく取り組み</p>	<p>①平成27年度大学・地域連携推進事業を受託 「学生と市民による地域の魅力発見・発信のための広報誌制作」(権田講師) 「空き店舗活用事業」(新潟産業大学・新潟工科大学共同受託) ・空き店舗を利用し、各大学プロジェクト、学生主催イベント、市民向け講座、クリスマスイルミネーション、などを企画運営。</p> <p>②ぎおん柏崎まつり参加 7月25日、ぎおん柏崎まつり二日目の「たる仁和賀パレード」に、「新潟産業大学御輿」を出し、学生・教職員計50人が参加した。</p>

	<p>③柏崎市の各種委員会等への委員派遣</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 柏崎シティセールス推進協議会構成団体参加代表（北原保雄学長）</li> <li>2) 柏崎市職員倫理審査会委員（秋山正道教授）</li> <li>3) 柏崎市環境審議会委員（阿部雅明教授）</li> <li>4) 柏崎市次期総合計画審議会委員（阿部雅明教授）</li> <li>5) 柏崎市公益通報等審査委員会委員（梅澤 精教授）</li> <li>6) 柏崎市情報公開・個人情報保護審査会委員（梅澤 精教授）</li> <li>7) 柏崎市立博物館運営協議会委員（梅澤 精教授）</li> <li>8) 柏崎市次期総合計画審議会委員（梅澤 精教授）</li> <li>9) 柏崎市男女共同参画審議会委員（梅比良眞史教授）</li> <li>10) 「かしわざき市民大学」企画運営スタッフ（片岡直樹教授）</li> <li>11) 柏崎市 WEB ミュージアム利活用研究会構成委員（片岡直樹教授）</li> <li>12) 柏崎市都市計画審議会委員（金 光林教授）</li> <li>13) 柏崎市指定管理者選定委員会委員（高橋成夫教授）</li> <li>14) 柏崎市行政改革推進委員会委員（橋本次郎教授）</li> <li>15) 柏崎市特別職報酬等審議会委員（広川俊男教授）</li> <li>16) 柏崎市入札監視委員会委員（星野三喜夫教授）</li> <li>17) 柏崎市廃棄物減量等推進審議会委員（アブドゲニィ アブドレヒミ准教授）</li> <li>18) 柏崎市奨学金貸付選考委員会委員（小林健彦准教授）</li> <li>19) 柏崎市文化財保護審議会委員（小林健彦准教授）</li> <li>20) 柏崎市 WEB ミュージアム利活用研究会構成委員（小林健彦准教授）</li> <li>21) 柏崎市次期総合計画審議会委員（小林健彦教授）</li> <li>22) 柏崎市福祉有償運送運営協議会委員（蓮池 薫准教授）</li> <li>23) 柏崎市元気なまちづくり事業補助金審査員（宇都宮 仁講師）</li> <li>24) 柏崎市立博物館運営協議会リニューアル検討会委員（権田恭子講師）</li> <li>25) 柏崎市介護保険運営協議会委員（柏崎市地域包括支援センター運営協議会委員・柏崎市介護保険サービス事業者選定委員会委員兼務）（平野実良講師）</li> <li>26) 柏崎市健康づくり推進会議委員（平野実良講師）</li> <li>27) 柏崎市都市スポーツ推進審議会委員（青柳 勸助手）</li> <li>28) 柏崎市シティセールス推進計画策定会議委員（青柳 勸助手）</li> <li>29) 柏崎リーダー塾運営協議会委員（金子和裕事務局長）</li> </ol>
(4)水球のまち柏崎への協力体制	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ブルボンウォーターポロクラブ事務局への大学施設の賃貸。</li> <li>②青柳勸経済学部助手が同クラブの選手兼任監督。</li> </ol>
(5) 柏崎市への施設貸与	<p>平成 24 年 4 月 1 日、柏崎市との間において、建物賃貸借契約書を締結(契約期間は平成 34 年 3 月 31 日まで)した。B 号館校舎（鉄骨造陸屋根 2 階建：床面積 1,448.39 ㎡）は、柏崎市立教育センターの庁舎として使用し、柏崎市職員が執務を行っている。</p>
(6)新潟県委託調査	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「平成 27 年度県内就職につながる学びの場づくり支援モデル事業」の受託（新潟の産業・企業を知る講座「地域振興論」の実施。）</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の趣旨 <p>県内就職の促進を図るため産業界と協働し、県内大学1年生から3年生を対象に、本学授業科目の「地域振興論」を公開することで、新潟県の製造業、商業、観光業、農業など第一次産業、第二次産業、第三次産業について、早い段階から理解を深めていくことを趣旨とする。</p> </li> <li>・事業概要 <p>事業は、座学とフィールドワークで構成し、座学は中越地方を中心とした多様な地域産業界や企業、行政のエキスパートを講師として招聘し、事前学習として開講した。座学で得た基礎知識を基に、フィールドワークも実施し、産業の現場を体験し、意見交換等を行った。</p> </li> </ul>

開講日	内容／行先／担当者等	参加者数
9/25 (金)	「地域振興論」の授業を始めるにあたって 本学経済学部教授 梅比良 眞史 (講義担当)	講義17人
	柏崎の観光事業 柏崎市産業振興部観光交流課 課長代理 井比 孝広 さん	
10/2 (木)	県委託事情としての「地域振興論」の授業の趣旨説明等 本学経済学部教授 梅比良 眞史 (講義担当)	講義18人
	海の観光 小竹屋 旅館【宣伝・SNS担当】ご当地サイダー「鯨泉」鯨泉製作委員会【代表・ディレクター】パドラーズ・パラダイス柏崎【企画・準備室長】 朽堀 耕一 氏	
10/3 (土)	株式会社ニッカイ米山 日本海フィッシャーマンズケープ 総務部次長 松崎 和美 氏	フィールドワーク 13人
	小竹屋旅館 小竹屋 旅館 朽堀 耕一 氏	
10/9 (金)	ものづくりの歴史と企業誘致 柏崎市産業振興部 工業振興立地課 課長 小林 泉 氏	講義60人
10/16 (金)	風輪通貨活動の現地研修 本学経済学部 教授 阿部 雅明	フィールドワーク 60人
	富士ゼロックスマニュファクチュアリング株式会社 人事総務部 総務チーム 渡邊 知子 氏	
	株式会社東芝 柏崎工場 柏崎工場管理部 中川 尊仁 氏	
	新潟岡本硝子株式会社 総務課長 新澤 守 氏	
10/23 (土)	大地の芸術祭と地域創生 十日町市産業観光部観光交流課 芸術祭企画係長 斎喜 直 氏	講義13人
10/24 (土)	十日町市 越後妻有里山現代美術館「キナーレ」 「アートによる地域振興」NPO法人 越後妻有里山協働機構 事務局長代理 原 蜜 氏	フィールドワーク 19人
	十日町市 大地で輝く移住女子(新規就農への挑戦)かな やんファーム代表 十日町市農業委員 佐藤 可奈子 氏	
11/6 (金)	食品産業について 株式会社 ブルボン ・製造管理部 資材管理二課長 徳永 崇 氏 ・人事企画部 人事企画課係長 吉野 崇 氏	講義15人
11/7 (土)	公益財団法人 ブルボン吉田記念財団 ドナルド・キーンセンター 事務局長 染谷 晃 氏	フィールドワーク 20人
	株式会社 ブルボン 株式会社ブルボン 本社工場長 浦崎 吉信 氏	
11/13 (金)	地域振興と金融 柏崎信用金庫 理事長 小出 昭夫 氏	講義9人
11/20 (金)	ワーク・ライフ・バランスについて 県民生活・環境部男女平等社会推進課長 上野 有紀 氏	講義13人
11/27 (金)	アグリ・スポーツ・ツーリズム産業 ピーチビレッジ刈羽株式会社 代表取締役社長 入澤 勇太 氏	講義15人
11/27 (金) PM	ぴあパーク とうりんぼ (PVK)後、バスで移動し見学 (15:30~17:30)	ミニインターンシップ 28人
11/28 (土) AM	ミニインターンシップ ピーチビレッジ刈羽株式会社	
講義参加者数		延べ160人
フィールドワーク参加者数		延べ140人
参加者総合計		延べ300人

(参考) 参加者アンケートは大学ホームページに掲載。

## ②新潟県柏崎地域振興局からの調査委託

平成26年度に引き続き、本年度も新潟県柏崎地域振興局から「元気な山里づくり推進モデル事業」に係る調査委託を受けた。調査内容は、柏崎中山間地域の資源・特産品等の有効活用による地域活性の可能性調査である。

本学ウリジバヤル助教とそのゼミ生がこれを受け、柏崎市高柳町を調査地域

	<p>に定め、本年度計 9 回（平成 26 年度は計 10 回。）高柳町を訪問した。地元の方々の多大な協力のもと、地域の歴史・自然・生活・文化・経済等を学んだほか、高柳町の子供達との各種イベントにも参加し交流を深めた。また、本年度は新たな試みとして、高柳町特産品を活用した新商品パッケージングデザインを考え東京高島屋での販売も行った。</p> <p>2 年間の活動の締めくくりとして、調査報告会を平成 28 年 3 月、高柳町において開催し、報告と共に学生目線での地域活性化の提案を行った。</p>
(7)地元ラジオ局への学長出演	<p>柏崎コミュニティー放送 FMピッカラ 番組名「WIND AVENUE」 「北原保雄のよもやま話」放送回数 50 回</p>
(8)刈羽村との連携	<p>平成 27 年 5 月 30 日 刈羽村・新潟産業大学・新潟工科大学の三者による「包括連携協定セレモニー」「記念講演会」を共同開催した。</p>
(9)その他	<p>地域の活性化を計画的・組織的に推進するために従来の「生涯学習センター」を廃止し、「地域連携センター」を設置する旨、規定化した。 (同センターの設置は平成 28 年 4 月 1 日付け)</p>

## 2. 7 国際交流

事業項目	平成 27 年度実施内容
(1)地域における国際交流	<p>①小中学校等への外国人留学生派遣 2. 4 留学生支援 (3) ②に詳細を記載。</p> <p>②柏崎地域国際化協会関係事業 6 月 24 日開催の通訳事例研究・勉強会に留学生 3 人が参加した。8 月には交換留学生が柏崎市内の一般家庭へ一泊のホームステイをさせてもらい、家族の一員として、日本の家庭生活、家族の在り方を体験した。</p> <p>③学園祭で「私の主張 イン柏崎」を実施 留学生 8 人が柏崎市民を前にスピーチを行い、異文化理解への関心を高めた。</p> <p>④「日本語学習支援者の心得」講習に参加 9 月 26 日 (土) に「日本語学習支援者のための基礎講座」柏崎国際化協会主催の行事に本学チューター 2 人と事務職員 1 人が参加し、多くの知見を得た。</p>
(2)海外学術交流協定校との交流	<p>①短期留学生受入 黒龍江大学 (中国) 1 人、哈爾濱師範大学 (中国) 1 人、集美大学 (中国) 5 人、明道大学 (台湾) 1 人、計 8 人の交換留学生を受け入れた。</p> <p>②短期セミナー生受入れ 春学期に 2 人 (中国 2) の短期セミナー生を受け入れた。</p>



### 3 大学院経済学研究科

#### 3. 1 教育及び研究指導の改善

事業区分・項目	平成 27 年度報告
(1)教育研究方針等の自己点検	各大学院担当教員が教育内容と教育方法を自己点検し、特論や演習の中で見直しを図った。
(2)ファカルティ・ディベロップメントの推進	<p>①FD活動の一環としての研究報告会を開催            ■日 時：平成 28 年 2 月 10 日(水) 教授会終了後            テーマ：「柏崎市の経済波及効果を測る」            担 当：宇都宮仁 専任講師            大学院担当教員に加えて学部教員にも研究報告会への参加を促し、11 人の教員が研究報告会に出席した。</p> <p>②教員相互の授業見学の実施            「金融論特論 II」の授業を大学院担当教員 5 人が見学した。終了後は見学レポートが作成され、研究科委員会において結果を検討した。</p> <p>③大学院授業改善アンケートの実施            院生の意見や要望を授業に反映させるべく、授業改善アンケートを実施した。また、研究科委員会においてアンケート結果を検討した。</p>

#### 3. 2 学習・研究の支援

事業項目	平成 27 年度報告
(1)基礎学力養成支援	<p>①院生の経済学・経営学検定試験受験のための受験料を支援し、院生全員に年 1 回の受験を促した。担当教員が作成した模擬試験受験等の対策を通じ、院生の経済学、経営学の専門知識の習得、実力向上を図った。</p> <p>②院生の文献検索を助けるため、文献複写・相互貸借の費用の支援を行った。</p> <p>③院生の調査研究のための通信費補助を行い、修士論文作成の費用負担を軽減することを通じ、修士論文の完成度を高めた。</p>
(2)院生指導室の整備	院生の個別指導を充実させるため、インターネットに接続できるパソコン 2 台と統計処理ソフト (Eviews8) を使用できるパソコン 2 台をそれぞれ増やした。

#### 3. 3 教育の成果

事業区分・項目	平成 27 年度報告
(1)学位授与	経済学研究科経済分析・ビジネス専攻修士課程を 4 人が修了し、修士(経済学)の学位を授与した。

#### 3. 4 国際交流

事業項目	平成 27 年度報告
(1)国際交流の明確化	海外の大学との学術協定締結のための条件整備を検討した。

## II 新潟産業大学附属高等学校

### 1. 平成27年度の「教育等の事業」の概要

前年度までの部活動での活躍や大学進学実績をさらに高めるために、今年度も「部活で燃えろ！進路で輝け！」をスローガンに掲げ、少子化に伴う適齢人口の減少や、教育の多様化、個性化に対応し、地域に信頼され、期待される新潟産業大学附属高等学校を目指してきた。そこで、募集活動や広報活動では中学校訪問を数多くこなし、高校説明会の度に、当校の特色・魅力や教育成果などを、地域に深く理解していただけるよう必至に努力してきた。また、当校教育の啓蒙活動の一環として中越・上越地区の塾訪問も初めて試みた。

### 2. 平成27年度実績

#### (1) 部活動実績（国際大会・全国大会レベルに挑戦）

県高等学校総合体育大会に173人（昨年度166人）が出場し、北信越高等学校体育大会（ゴルフは関東大会）に60人（昨年度66人）が出場した。インターハイ等全国大会出場者数は延べ30人（昨年度41人）に達した。

#### ①卓球部

- 県高等学校総合体育大会 学校対抗戦女子で優勝を果たした。
- 北信越高等学校体育大会 学校対抗戦で男子5位、女子学校対抗3位、女子シングルスで3位と健闘した。
- 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）女子学校対抗戦、男女シングルス、男女ダブルスの種目に出場した。
- 全日本卓球選手権大会 7人出場を果たした。
- 北信越高等学校選抜卓球選手権大会 男女学校対抗第3位の成績を収め、全国高等学校選抜卓球大会の出場権を得た。
- 全国高等学校選抜卓球大会 男子学校対抗9位、女子学校対抗出場を果たした。

#### ②陸上競技部

- 新潟県高等学校総合体育大会 陸上競技
  - 男子 5000mW 優勝
  - 女子 200m 優勝
  - 女子 走高跳 優勝
  - ※学校対校 男子 6位 女子 3位
- 北信越総合体育大会 陸上競技
  - 男子 400m 5位
  - 棒高跳 4位
  - 女子 100m 7位
  - 400m 8位
  - 走高跳 優勝
- 全国高等学校総合体育大会 陸上競技
  - 男子 400m 出場
  - 棒高跳 出場
  - 女子 走高跳 出場
- 全国選抜大会 陸上競技
  - 男子 3000mW 2位

- 北信越新人大会 陸上競技
  - 男子 棒高跳 2位・5位
  - 男子 八種競技 4位

以上のように活躍した。

③ソフトテニス部

- 県高等学校総合体育大会 男子個人戦6位と活躍した。
- 北信越高等学校体育大会 個人戦に出場した。
- 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）男子個人戦に出場した。

④ゴルフ部

- 第18回県知事杯新潟県ゴルフ選手権女子の部 2位に入賞した。
- 新潟県高等学校総合体育大会ゴルフ大会 男子個人 2位3位 男子団体 3位に入賞した。
- 関信越高等学校ゴルフ選手権大会 男子個人の部 7位 男子団体 5位（関東高等学校ゴルフ大会決勝大会出場）を果たした。
- 関東高等学校ゴルフ大会決勝大会男子団体 12位 全国高等学校ゴルフ選手権大会男子団体の部に出場した。
- 第18回新潟県ジュニアゴルフ競技会高校男子の部 優勝を果たした。
- 全国高等学校ゴルフ選手権大会春季大会 男子個人 1人出場した。

⑤水泳部

- 北信越高等学校体育大会 2種目に出場した。
- 全日本ライフセービング・プール競技選手権大会 ラインスロー3位
- 全日本ユースライフセービング選手権大会 タップリンリレー1位（柏崎工業の生徒とペア）、ボードレース1位、サーフレース1位に入賞した。
- 三洋物産インターナショナルライフセービングカップ ボードレース8位、ビーチスプリント5位、ビーチリレー（団体）4位、チューブレスキュー（団体）5位、ボードレスキュー（団体）4位、オーシャンマンリレー（団体）4位に入賞した。
- 全日本ジュニア／ユースライフセービング・プール選手権大会 ラインスロー（団体）1位、男子100mマネキントゥ・ウィズフィン2位、男子50mマネキンキャリー1位、4×50m障害物リレー（団体）2位に入賞を果たした。

⑥男子バスケットボール部

- 第44回BSN杯高等学校バスケットボール大会 第3位の成績を収め、北信越大会に出場を果たした。

⑦女子バスケットボール部

- 第44回BSN杯高等学校バスケットボール大会 準優勝の成績を収め、北信越大会に出場を果たした

⑧野球部

- 第133回北信越地区高等学校野球新潟県大会 ベスト16。

⑨サッカー部

- 県高等学校総合体育大会 ベスト8
- 全国高校サッカー選手権大会新潟県大会 ベスト8
- 高円宮杯U-18サッカーリーグ2015新潟県リーグ 1部昇格

(2) 進学実績（大学・短期大学進学率66.2%、専修学校17.7%）

※昨年度大学・短期大学進学率53.8%、専修学校26.9%

- ①4年制大学進学率は56.5%であった。
- ②6年連続で国公立大学合格者を輩出した。
- ③一般受験が大幅に増加し、確かな学力を着けてきた。

#### 取り組み

- ①夏期特進講座（5日間、国語5時間、数学5時間、英語5時間）・冬期特進講座（5日間、国語5時間、数学5時間、英語5時間）・サマーゼミ（2泊3日の学習合宿、国語5時間、数学5時間、英語5時間、個別指導等6時間）・春期特進講座（5日間、国語5時間、数学5時間、英語5時間）は前年度と同様に計画・実施した。  
サマーゼミ（2泊3日の学習合宿）は、全学年を対象に志賀高原にて実施した。
- ②大学進学プログラム  
月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の8限及び水曜日の7、8限と土曜日の1、2、3限を利用し、大学進学に向けた学力向上を図った。
- ③高大連携教育（ブリッジプログラム）の実施  
1年生のフレッシューズセミナー等、附属高校独自のキャリア教育も大学側の多大な協力により予定どおり実施できた。

### 3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ

#### (1) 教育目標と教育方針

##### 【教育目標】

上品で逞しい生徒の育成

1. 人生観の指導と自信のある生活態度の育成
2. 学習意欲と能力の向上
3. 自律自治と社会連帯の精神涵養

##### 【教育方針】

生徒一人ひとりを大切にすることを基本に据え、部活で燃えろ！進路で輝け！を合言葉に、全国に名高い部活動・進学校を目指す。

#### (2) 生徒への支援

##### 【教務部】

《今年度の重点事項》

- ①平成27年度教育課程の実施・検証
- ②授業規律の徹底
- ③魅力ある学習活動の実践
- ④進路指導部との連携にした効果的な学習指導
- ⑤授業時数の確保

《具体的な取り組み》

- ①今年度は全学年が新教育課程となり、運用上の問題点等の有無を確認しながら実施した。
- ②期限付きの取り組み（出席率向上、ベル着席率向上、学習活動完了率向上）を定期的に7～8日間で実施した。授業は私語を慎み、意欲的に学習活動を行うことを徹底した。
- ③授業に集中できるよう、副教材や指導方法に工夫を施した。
- ④大学進学プログラムや放課後の自主学習を進路指導部と連携し、学習状況の点検や適切な助言をし、希望進路達成を支援した。また、各長期休業に「特進講座」を1週間実施し、進学希望者の学力伸長を図った。
- ⑤コース毎に授業時数を集計・点検し、当初の計画通りの授業時数を確保した。

《結果》

- ①大きな問題点は指摘されなかったが、運用をより適切に行うため、来年度から、1年次国語総合と地理Bの単位数を全コース同様とする変更することとなった。
- ②「授業業規律向上の取り組み」や「期限付きの取り組み」、さらにクラスや学年による取り組みにより、授業規律は大きく向上した。
- ③自作副教材・視聴覚教材の活用することにより、生徒が興味・関心を持って授業に臨んだ。
- ④さまざまな機会を捉えて学習の場をつくり、学力をできる限り伸ばし、希望進路の実現を支援した。
- ⑤教科・科目毎の時数に若干の差異が見られたが、総授業時数は確保できた。

【生徒指導部】

《今年度の重点事項》

- ①規律ある生活態度の育成、社会のルールやマナーの理解・実践
- ②生徒が授業や部活動、行事に主体的に参加するための援助
- ③制服の正しい着用

《具体的な取り組み》

- ①基本的な生活習慣の確立（欠席・遅刻・早退の防止）と中途退学者の防止  
保護者からの連絡、届出を徹底させ、連絡がない場合には保護者に確認をした。不登校の生徒については、学校全体で共有した情報を持って丁寧に指導し、中途退学者を減らす努力をした。
- ②校内規律の確立（制服・頭髪・言葉遣い）と社会のルールの遵守  
制服・頭髪については定期的に各学年で検査を実施し改善させた。
- ③学業に不必要な物品等を持ち込まない指導  
ゲーム機、音楽プレイヤー、カード類、雑誌類、装飾品等の持ち込みを厳しく禁止した。
- ④立哨指導、巡視指導  
生徒玄関での生徒指導部を中心とした立哨指を学期ごとの始めに実施した。
- ⑤長期休業の事前指導  
夏季・冬季・春季休業中の生活について生徒に文書を配布し、学年集会、各HRで事前指導を実施した。また、保護者にも文書を配布し、期末PTA等で協力をお願いした。
- ⑥生徒会主催の県総体激励会、インターハイ・北信越・野球部激励会の実施
- ⑦腰パン禁止、シャツ出し禁止、スカートの正しい着用、ネクタイの正しい着用等の身だしなみの取り組みを年間通して指導をした。

《結果》

- ①無断欠席、無断早退がなく、生徒の所在が確認できた。不登校生徒は家庭訪問で状況把握ができた。
- ②頭髪の改善については、保護者に連絡し協力を得られた。高校生らしい清楚な容姿になってきた。
- ③授業姿勢、雰囲気向上し生徒、教師共に相乗効果があった。
- ④挨拶指導、服装指導に効果があった。安田駅の乗降車、マナー指導は社会のルール遵守に効果があった。

- ⑤長期休業中は事故・事件はなかった。
- ⑥北信越大会、インターハイ、国体に多くの生徒が出場した。
- ⑦正しい制服の着用については、段階的な指導を実施した。生徒はルール遵守の重要性が理解できた。

## 【進路指導部】

### 《今年度の重点事項》

- ・教科、学年と連携しながら組織的に特別進学指導を実施し、確かな受験学力をつける。
  - ・大学進学率、センター試験受験者数を高め、国公立大と難関私立大の合格者を増やす。
  - ・進路指導が段階的、系統的に行われるように次の年次指導目標を置く。
- 1年 安定した高校生活を過ごし、その中で理想とする生き方や将来の方向、職業を考える。  
学習習慣を確立し、国語・数学・英語の学力充実と得意科目の発展的学習を進める。
- 2年 高校生活の一層の充実を図りながら、自分の関心・適性・能力を客観的に把握する。  
社会的自己実現の為の進路目標を定め、国・数・英・受験科目の学力向上に努力する。
- 3年 希望する進路の目標を絞り、必要な情報を整理し、全力で受験準備に邁進する。  
目標、情報、準備状況を総合的に判断し、果敢に受験しながら着実に進路を決定する。

### 《具体的な取り組み》

- ①進路の手引きの作成や、進路希望調査を実施した。
- ②進路指導室については、生徒が利用しやすいスペース作りや資料の蓄積と整理をした。  
また、センター試験、就職試験への激励会を実施した。
- ③就職希望者の全員内定を目指し、「就職試験対策ゼミ」「ハローワーク相談室」「就職ガイダンスⅠ」「就職ガイダンスⅡ」「4者面談（保護者、生徒、担任、進路指導部）」等を実施した。
- ④カレッジコースの卒業時までの継続した進路指導として、センター試験説明会を学期毎に実施した。
- ⑤大学進学者の増加策として、学年毎の進学指導を強化し、国公立大学への推薦選抜入試の指導やラーナーズクラブ（勉強部）を指導して大学進学者数の底上げを図った。
- ⑥教務部とタイアップして、大学進学プログラム・サマーゼミ等を充実させた。
- ⑦履歴書に書ける特技や資格を身に付けさせる目的から、各種資格の取得を奨励した。
- ⑧新たな求人先の開拓を目指し、積極的に企業訪問を行った。
- ⑨社会人としての心得についての指導を目的に、社会人準備セミナーを実施した。
- ⑩広報とリンクし、「部活で燃えろ進路で輝け」及び「部活で燃えろ進路で輝け地域版」を地域（上越、長岡を含む）に配布した。
- ⑪新たな大学の指定校枠の開拓をした。

### 《結果》

- ①進路の手引きを作成し、全校生徒・保護者に配布した。進路意識調査は学期毎に実施したが、全体的には教師側の指導もあり、進学志向が高まってきている。
- ②進路指導室については、進学や就職の情報収集・面接練習或いはセンター試験受験の勉強スペースとして利用する生徒が多かった。
- ③2、3年生カレッジコースを対象としてセンター試験説明会を実施した。内容としては「センター試験受験の意義」や「出願書類の書き方」等を指導した。
- ④センター試験激励会については、試験前日は校内で、盛大に受験生の激励を行うことが

できた。就職試験激励会についても、教職員と後輩からの力強い激励と受験生の決意表明があり、試験本番に臨むことができた。

- ⑤就職試験対策ゼミを開催し、「クレペリン検査」「作文」「一般常識」等就職試験に向けた指導を行い、事前学習・事前準備を促すことができた。ハローワーク相談室では、校内で職安職員より就職応募に向けた指導を受けた。また、就職ガイダンスⅠにおいては、就職試験までの流れや就職試験の厳しさ、或いは進学への方向転換等を含めて説明をし、気を引き締めることができた。更に厚生労働省主催による就職ガイダンスⅡでは、職業指導員から面接の受け方や就職への心構え等の指導を受け、実践力を身につけることができた。未内定者については、保護者、生徒、担任、進路指導部の4者で将来についての方向を探りながら、面談等の指導を重ね希望者全員が内定することができた。
- ⑥進学意識を高める為と「高・大連携教育」の実践的な取り組みの一環として、1年生を対象として「フレッシュマンセミナー」や「産大・工科大見学会」を実施した。2年生では「大学見学会」や「進路ガイダンス」3年生では「進学説明会」等を実施した。また、産業大学の教室を借用して、センター試験対策ゼミを実施した。3年生23人が参加し、自学自習の習慣づけと学力向上に努めることができた。国公立大学の推薦選抜入試にも複数の生徒をチャレンジさせた。更にラーナーズクラブ（勉強部）の活動を定着させ将来的な大学進学者数の底上げを図っている。
- ⑦サマーゼミ（学習合宿）を長野県志賀高原で実施した。1年19人、2年27人、3年12人が参加し、学習習慣と効率的な学習法を身に付けることができた。3年生の参加ははじめてであり、スポーツクラスの生徒も参加した。
- ⑧3年生11月のベネッセ駿台マーク模試はセンター試験会場校である新潟工科大学で行った。
- ⑨就職希望者を対象として手話講座を開催し、柏崎市職員の方から指導を受けた。基本的な部分ではあるが、受講者には特技の1つとして体得させることができた。また、資格取得を奨励・指導した。柏崎労働基準協会によるアーク溶接講習、クレーン講習で6人が資格を取得できた。
- ⑩企業訪問を実施した。職場への定着指導や今後の求人開拓に結び付く感触も得ることができた。
- ⑪就職希望者を対象として、社会人準備セミナーを実施した。「社会でのマナー」について、にいがたキャリアサポーター講師より講演を受け、社会人としての緊張感をもたせることができた。
- ⑫進路指導ニュース「部活で燃えろ進路で輝け」の発行により、生徒に対しては進路に対する意識付けと自信を持たせ、地域に対しては本校をPRする活動の一助にもなり「生徒募集」に役立てることができた。

## 4. 生徒募集

### (1) 中学校訪問の強化（長岡・上越地域の生徒の増加のために）

第1回から3回までの中学校訪問は、午後から授業のない考查期間中に実施した。第4回は二次入試の出願日程に合わせるとともに、訪問者の授業時間割を考慮し、訪問日を分散させた。

第1回中学校訪問（広報活動、情報収集）

7月3日（金）、6日（月） 77校（昨年度77校）

柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、十日町、上越、三条

第2回中学校訪問（生徒募集並びに広報活動、学校見学会案内）

10月14日（水）、15日（木） 77校（昨年度77校）

柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川

第3回中学校訪問（推薦・第一次・部活動専願入試に向けて、中学校の出願状況、情報収集及び募集活動）

11月27日（金）、11月30日（月）77校（昨年度77校）

柏崎、刈羽、長岡、見附、三条、燕、出雲崎、魚沼、南魚沼、十日町、小千谷、上越、糸魚川

第4回中学校訪問（第二次入試に向けて、情報収集及び募集活動、推薦・第1次・部活動専願入試の報告）

2月23日（火）、25日（木）、26日（金）

57校（昨年度57校）

柏崎、刈羽、出雲崎、長岡、見附、小千谷、上越

(2) 高校説明会（中学校からの依頼参加）

< 柏崎・刈羽地区（13校）13回 >

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| ①5月22日（金）柏崎市立第一中学校  | ⑧6月29日（月）柏崎市立第五中学校 |
| ②6月11日（木）刈羽村立刈羽中学校  | ⑨7月3日（金）柏崎市立南中学校   |
| ③6月12日（金）柏崎市立鏡が沖中学校 | ⑩7月7日（火）柏崎市立北条中学校  |
| ④6月16日（火）柏崎市立西山中学校  | ⑪7月8日（水）柏崎市立東中学校   |
| ⑤6月17日（水）柏崎市立第二中学校  | ⑫7月10日（金）柏崎市立松浜中学校 |
| ⑥6月19日（金）柏崎市立瑞穂中学校  | ⑬7月14日（火）柏崎市立高柳中学校 |
| ⑦6月25日（木）柏崎市立第三中学校  |                    |

< 長岡地区（4校）4回 >

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| ①6月12日（金）長岡市立越路中学校 | ③6月19日（金）長岡市立東北中学校 |
| ②6月15日（月）長岡市立与板中学校 | ④9月29日（火）長岡市立小国中学校 |

< 上越地区（8校）8回 >

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| ①6月8日（月）妙高市立新井中学校   | ⑤6月26日（金）上越市立春日中学校  |
| ②6月11日（木）上越市立城東中学校  | ⑥7月14日（火）上越市立城北中学校  |
| ③6月18日（木）上越市立大潟町中学校 | ⑦10月8日（木）上越市立柿崎中学校  |
| ④6月26日（金）上越市立直江津中学校 | ⑧11月25日（水）上越市立頸城中学校 |

(3) 中学校教師対象入試説明会

9月18日（金） 16校 16人（平成26年度23校 23人参加）

柏崎市立第一中学校、第二中学校、第三中学校、鏡が沖中学校、瑞穂中学校、松浜中学校、南中学校、東中学校、第五中学校、北条中学校、西山中学校、刈羽村立刈羽中学校、長岡市立西中学校、大島中学校、越路中学校、小国中学校、

(4) 学校見学会（オープンスクール）

第1回学校見学会 7月11日（土）（部活動体験、産附弁当配付）

150人（昨年度69人）

第2回学校見学会 10月16日（金）（授業・部活動体験、産附弁当配付）



個別見学会 随時 168人（昨年度 165人）  
 （校舎・授業見学）  
 2人（昨年度 3人）

（参考）平成 15 年度 50 人、平成 16 年度 86 人、平成 17 年度 56 人、平成 18 年度 76 人、平成 19 年度 90 人、平成 20 年度 168 人、平成 21 年度 170 人、平成 22 年度 145 人、平成 23 年度 242 人、平成 24 年度 269 人、平成 25 年度 280 人、平成 26 年度 237 人、平成 27 年度 237 人

※学校見学会には、多くの中学生の参加があり、授業や部活動の見学・体験から、本校についての理解を深めてもらった。

（5）募集結果（平成 28 年度）

学科	募集 学級	募集 定員	区 分	志 願	受 験	合 格	入 学 手 続	入 学 許 可
普通	4	160	学業特別推薦	22	22	22	2	2
			スポーツ特別推薦	74	74	74	74	74
			一次（専願）	50	50	45	45	45
			部活動専願	16	16	16	16	16
			併願推薦	210	210	210	5	5
			一般併願	148	147	125	6	6
			二次	3	3	3	3	3
			計	523	522	495	151	151

## 5. 新規取組事項

- （1）卓球部、陸上競技部、ゴルフ部が新潟県の事業である「魅力ある私立高校づくり支援事業」2 巡目（1 巡 3 年間）の指定を受け、その 2 年目として事業に取り組んだ。27 年度は、卓球部は中国遠征、県外遠征に力を入れ、陸上競技部は地域の治療院の協力を得て、選手のコンディショニングに努めるとともに、年間 3 回における合宿の充実も計った。ゴルフ部はプロによるレッスン、県外遠征、強化練習等の取組みをし、各部活とも結果を出した。
- （2）理科棟および講堂棟の一部教室にエアコンを設置した。
- （3）平成 27 年度卒業記念事業として、スタッキングチェアを整備した。
- （4）修学旅行先においては、異文化に触れることを目的として香港に渡航した。
- （5）当校の教育活動内容を広く浸透させるために広告等掲載を強化し、柏崎地区は「柏崎情報パーク」、上中越地区は「新潟日報上中越版等」、さらには「JR 列車の時刻表」に本校広告を掲載した。さらに、高速バス内のアナウンスの中に本校の宣伝も流した。
- （6）入学式において、国歌斉唱をブラスバンド部の生演奏で伴奏した。

# 第3部 財務の概要

法人名：柏専学院

## 資金収支計算書

平成27年4月1日から

平成28年3月31日まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	522,319,000	525,988,155	▲ 3,669,155
手数料収入	8,032,000	8,493,910	▲ 461,910
寄付金収入	10,804,000	9,993,100	810,900
補助金収入	370,473,000	371,648,221	▲ 1,175,221
国庫補助金収入	152,439,000	152,743,960	▲ 304,960
地方公共団体補助金収入	218,034,000	218,904,261	▲ 870,261
資産売却収入	300,056,000	300,056,000	0
付随事業・収益事業収入	32,071,000	32,366,000	▲ 295,000
受取利息・配当金収入	1,001,000	693,239	307,761
雑収入	56,347,000	55,553,710	793,290
前受金収入	52,607,000	66,754,668	▲ 14,147,668
その他の収入	179,803,385	121,855,943	57,947,442
資金収入調整勘定	▲ 109,728,918	▲ 136,299,286	26,570,368
前年度繰越支払資金	486,886,579	486,886,579	0
収入の部合計	1,910,671,046	1,843,990,239	66,680,807
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	692,713,000	685,086,202	7,626,798
教育研究経費支出	302,776,000	289,673,734	13,102,266
管理経費支出	109,546,000	104,221,236	5,324,764
借入金等利息支出	71,000	94,860	▲ 23,860
借入金等返済支出	2,358,000	2,352,200	5,800
施設関係支出	14,866,000	14,325,120	540,880
設備関係支出	3,498,000	2,641,123	856,877
資産運用支出	8,020,000	5,138,265	2,881,735
その他の支出	122,705,899	63,868,857	58,837,042
[予備費]	(0)		
	19,200,000		19,200,000
資金支出調整勘定	▲ 46,390,854	▲ 47,427,496	1,036,642
翌年度繰越支払資金	681,308,001	724,016,138	▲ 42,708,137
支出の部合計	1,910,671,046	1,843,990,239	66,680,807

## 事業活動収支計算書

平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで

(単位 円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	522,319,000	525,988,155	▲ 3,669,155
		手数料	8,032,000	8,493,910	▲ 461,910
		寄付金	11,304,000	11,117,596	186,404
		経常費等補助金	370,473,000	371,648,221	▲ 1,175,221
		国庫補助金	152,439,000	152,743,960	▲ 304,960
		地方公共団体補助金	218,034,000	218,904,261	▲ 870,261
		付随事業収入	32,071,000	32,366,000	▲ 295,000
		雑収入	64,847,000	64,045,699	801,301
		教育活動収入計	1,009,046,000	1,013,659,581	▲ 4,613,581
		教育活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	予 算
人件費	683,027,000			672,711,687	10,315,313
教育研究経費	383,776,000			373,724,892	10,051,108
管理経費	129,545,000			123,447,131	6,097,869
徴収不能額等	0			2,416,750	▲ 2,416,750
教育活動支出計	1,196,348,000			1,172,300,460	24,047,540
教育活動収支差額		▲ 187,302,000	▲ 158,640,879	▲ 28,661,121	
教育活動外収支	業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	1,001,000	693,239	307,761
		教育活動外収入計	1,001,000	693,239	307,761
	業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金利息	71,000	94,860	▲ 23,860
教育活動外支出計	71,000	94,860	▲ 23,860		
教育活動外収支差額		930,000	598,379	331,621	
経常収支差額		▲ 186,372,000	▲ 158,042,500	▲ 28,329,500	
特別収支	業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		その他の特別収入	790,000	790,000	0
		特別収入計	790,000	790,000	0
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	1,483,000	1,489,328	▲ 6,328
		その他の特別支出	701,000	700,030	970
特別支出計	2,184,000	2,189,358	▲ 5,358		
特別収支差額		▲ 1,394,000	▲ 1,399,358	5,358	
〔予備費〕		0)		18,200,000	
基本金組入前当年度収支差額		▲ 205,966,000	▲ 159,441,858	▲ 46,524,142	
基本金組入額合計		▲ 9,014,000	▲ 8,404,666	▲ 609,334	
当年度収支差額		▲ 214,980,000	▲ 167,846,524	▲ 47,133,476	
前年度繰越収支差額		▲ 2,655,123,087	▲ 2,655,123,087	0	
翌年度繰越収支差額		▲ 2,870,103,087	▲ 2,822,969,611	▲ 47,133,476	
(参考)					
事業活動収入計		1,010,837,000	1,015,142,820	▲ 4,305,820	
事業活動支出計		1,216,803,000	1,174,584,678	42,218,322	

## 貸借対照表

平成28年3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	3,508,691,955	3,904,774,970	▲ 396,083,015
有形固定資産	3,090,467,412	3,177,831,340	▲ 87,363,928
特定資産	411,501,161	420,264,369	▲ 8,763,208
その他の固定資産	6,723,382	306,679,261	▲ 299,955,879
流動資産	787,058,486	594,986,410	192,072,076
資産の部合計	4,295,750,441	4,499,761,380	▲ 204,010,939
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	372,554,418	396,453,122	▲ 23,898,704
流動負債	138,170,457	158,840,834	▲ 20,670,377
負債の部合計	510,724,875	555,293,956	▲ 44,569,081
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	6,607,995,177	6,599,590,511	8,404,666
第1号基本金	6,443,995,177	6,435,590,511	8,404,666
第3号基本金	4,000,000	4,000,000	0
第4号基本金	160,000,000	160,000,000	0
繰越収支差額	▲ 2,822,969,611	▲ 2,655,123,087	▲ 167,846,524
純資産の部合計	3,785,025,566	3,944,467,424	▲ 159,441,858
負債及び純資産の部合計	4,295,750,441	4,499,761,380	▲ 204,010,939

## 財産目録総括票

I 資産の部			
科 目		帳簿価額	
1 基本財産		3,508,691,955 円	
有形 基本 財産	(1) 土地（団地別）	107,070.43 m <sup>2</sup>	865,304,747 円
	軽井川校地	67,789.00 m <sup>2</sup>	784,094,326 円
	安田校地	33,242.00 m <sup>2</sup>	31,846,301 円
	学外用地	6,039.43 m <sup>2</sup>	49,364,120 円
	(2) 建 物	23,125.24 m <sup>2</sup>	1,555,280,083 円
	① 校 舎	16,408.40 m <sup>2</sup>	1,198,627,840 円
	② 体 育 館	4,096.61 m <sup>2</sup>	238,728,692 円
	③ そ の 他	2,620.23 m <sup>2</sup>	117,923,551 円
	(3) 構 築 物	87 件	68,083,548 円
	(4) 教育研究用機器備品	5,661 点	20,288,954 円
	(5) 管理用機器備品	544 点	2,594,397 円
	(6) 図 書	122,469 冊	578,380,869 円
	(7) 車 両	10 台	534,814 円
(8) 建設仮勘定	0 件	0 円	
計		3,090,467,412 円	
その 他の 基本 財産	(1) 電話加入権	25 口	1,685,993 円
	(2) 敷 金	35 口	1,548,000 円
	(3) 有 価 証 券	501 口	308,799 円
	(4) 出 資 金	1 口	3,023,000 円
	(5) 退職給与引当特定資産	3 口	279,225,966 円
	(6) 施設設備引当特定資産	2 口	125,275,195 円
	(7) 国際経済人育成特定資産	1 口	3,000,000 円
	(8) 第3号基本金引当特定資産	2 口	4,000,000 円
	(9) 預 託 金	9 口	157,590 円
	計		418,224,543 円

I 資産の部	
科 目	帳 簿 価 額
2 運用財産	787,058,486 円
(1) 現金預金	724,016,138 円
(2) 未収入金	57,930,708 円
(3) 前払金	2,240,686 円
(4) 立替金	441,638 円
(5) 仮払金	2,393,776 円
(6) 預り預金	35,540 円
資産の部合計	4,295,750,441 円

II 負債の部	
3 固定負債	372,554,418 円
(1) 長期借入金	4,704,400 円
(2) 退職給与引当金	367,850,018 円
4 流動負債	138,170,457 円
(1) 短期借入金	2,352,200 円
(2) 未払金	44,342,313 円
(3) 前受金	66,754,668 円
(4) 預り金	24,721,276 円
負債の部合計	510,724,875 円

III 純資産	
金額 ( I - II )	3,785,025,566 円
$\frac{\text{負債の部合計} - \text{前受金}}{\text{資産の部合計}} \times 100$	10.34 %